

令和 6 年度
ヒューマンケアリングセンター活動報告書



日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター

目 次

1. ヒューマンケアリングセンターの活動	
1) 活動目的	2
2) 活動目標	2
2. 活動実績	
1) 臨床看護職連携部門	2
2) 地域連携部門	2
3) 学生ボランティア部門	2
4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進	3
5) 広報活動	3
3. 全体評価	
1) 事業	3
2) 次年度への課題	4
4. 各事業の報告	
1) 臨床看護職連携部門の活動	
看護職のためのチームづくり研修会	5
中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会	6
臨床指導者研修会	7
看護師長のためのリフレクション研修	8
2) 地域連携部門の活動	
あいプラザまつり	9
健康フェスタ in フジグランナタリー	10
地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト	11
阿品台いきいき健康づくり	12
日本赤十字広島看護大学 公開講座	13
3) 学生ボランティア部門の活動	
認知症サポーター養成講座	14
ゲートキーパー養成講座	15
ボランティア活動の推進・実績	16
4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進	
認知症高齢者支援会議	20
5) 学内教員の活動報告	
社会活動	21

1. ヒューマンケアリングセンターの活動

1) 活動目的

本学の教育・研究機能を学外に開き、社会と連携・協働しながら、地域の保健医療福祉に貢献する教育機関として活用できる生涯学習拠点として活動する。

2) 活動目標

- (1) 赤十字施設および実習施設など地域の保健医療施設と連携・協働し、専門職を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
- (2) 廿日市市との包括協定を活かして、地域住民を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
- (3) 教育ネットワーク中国・社会福祉協議会など外部関係団体との連携を図り、地域住民のニーズにあった生涯学習の機会を提供する。
- (4) 地域支援活動を効果的・効率的に学内外へ広報する。
- (5) 自治体と連携・協働し、地域住民の健康の保持増進に寄与するための健康学習と支援体制を推進する。
- (6) 地域支援活動の成果を評価し、活性化を図る。

2. 活動実績

1) 臨床看護職連携部門

開催時期	開催内容	開催方法	参加人数
6月～12月	臨床指導者研修会	対面	延 118 人
9月 22 日	中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会	対面	56 人
1月 25 日	看護職のためのチームづくり研修会	対面	19 人

2) 地域連携部門

開催時期	開催内容	開催場所	参加人数
10月 11 日	健康フェスタ	フジグラン	25 人
10月 12 日		ナタリー	38 人
11月 3 日	あいプラザまつり	山崎本社みんなのあいプラザ	41 人
6月 3 日	地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト	日本赤十字	16 人
11月 19 日		広島看護大学	18 人
1月 27 日			12 人
3月 25 日			18 人

2月26日	阿品台いきいき健康づくり	阿品台市民センター	19人
3月2日	日本赤十字広島看護大学 公開講座	山崎本社みんなのあいプラザ	20人

3) 学生ボランティア部門

学生ボランティア等参加募集及び活動実績

参加募集		活動実績
地域支援・保健・福祉に関するボランティア	105件	約196人
病院や教育に関連するアルバイト	15件	
セミナー	1件	

学生のボランティア意識向上や地域活動推進のための講座

開催時期	開催内容	開催場所	参加人数
4月5日	ボランティア講習会	日本赤十字広島看護大学	135人
10月2日	認知症サポーター養成講座	日本赤十字広島看護大学	146人
1月20日	ゲートキーパー養成講座	日本赤十字広島看護大学	35人

4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進

教育ネットワーク中国のシステムを活用し、看護系大学として他大学にないテーマの提供と教育研究成果の還元ができるよう調整した。

廿日市市社会福祉協議会主催の認知症高齢者支援会議へ出席し、さらに学生を対象とした認知症サポーター養成講座を実施することで、認知症に関する学習機会を設けた。令和6(2024)年度から、学生を対象としたゲートキーパー養成講座も開始し、精神保健に関する学生の地域支援活動力の強化を図っている。

また、科研による早稲田大学との共同研究に取り組み、令和6(2024)年度は、廿日市市立宮島小学校において、学生ボランティアによる防災教育を実践した。今後は、防災教育に関するプラットフォームを確立並びに運用し、学生も参加した地域における防災教育の支援体制を整備する予定である。

5) 広報活動

本学ホームページに各事業の募集記事を掲載した。

臨床看護職連携部門では、赤十字関連施設、実習関連施設、近隣の医療施設を中心にチラシを配布し、地域連携部門では、主に廿日市市、広島県教育委員会、教育ネットワーク中国を通して募集を募った。また、応募が少ない事業に関しては、再度チラシを配布し住民への

参加を募った。

学生ボランティア部門では、本学のサイトより学生ボランティアの応募を募った。団体等からの応募に関しては、本学ホームページのトップ画面にボランティア依頼の掲示をする等閲覧しやすいよう工夫した。

3. 全体評価

1) 事業

令和 5（2023）年度から開催している地域住民の健康増進に寄与するための拠点として「地域の笑顔とクロスする!元気プロジェクト」を継続して実施している。今年度は、とりわけ、レクレーション指導員の資格を持った教員によるレクレーション企画や助産師教員による中高年女性のためのボディートリートメントなど、これまでになかった企画が、非常に好評だった。この元気プロジェクトは、今後も継続して実施して今予定である。

昨年度から、各教員が地域貢献できる内容について、毎年調査し、公開することによって、地域に開かれた知の拠点として活動を強化する基盤を整えることができた。

臨床看護職連携部門では、リカレント教育として位置付けられた臨床指導者研修会は、今年度も参加者が多く、昨年に続けて、全課程修了者には、「修了証書」を発行することができた。本事業については、今年度の実習指導者連携会議でも紹介をした。その他の看護専門職の研修会の企画運営も、参加者からのニーズ調査をもとに、より学習ニーズに合った研修を企画できるように体制を整えた。

学生ボランティア部門は、学生間でボランティア登録システムが定着し、年々、ボランティア参加者が増加し、医療関係のアルバイトを含む依頼が増加してきている。

以上のことから、センター機能としての運営体制を整備することができたといえる。

2) 次年度への課題

ヒューマンケアリングセンターは、今後、知の拠点として、大学が有する知を、地域の人々に広く知っていただき、活用していただくために広報をしていく必要がある。ホームページから情報を得る人も増加していることから、より分かりやすいページにしていく必要がある。

また、赤十字の大学として、小学生や中学生を対象にした学校防災に関する学生ボランティアを巻き込んだ活動の実現に向けて、事業計画を立案することが課題である。

4. 各事業の報告

1) 臨床看護職連携部門の活動

看護職のためのチームづくり研修会

<事業評価>

「ファシリテーション研修～話し合いのコミュニケーションスキル～」をテーマに、昼食を挟み 6 時間 30 分のレクチャーとミニワーク、ブレinstoーミングを取り入れた研修会を開催した。参加者は 19 名で 5 つのグループに分かれて意見交換を行った。アンケートの回答率は 89.4%であり、「参加者を引き込む講師の話し方や体験型のワークにより、内容が理解しやすかった」との意見が聞かれた。また、「ファシリテーターの役割や可視化の大切さが理解できた」「相槌など自分が行えていないことが良くわかった」などの意見もあり、本研修会の目的である共に学び合うための関係づくりや、ファシリテーションスキルを獲得できていた。参加者の 100%が本研修会を終えて実践で活用できると回答し、実践に活かせる研修会となった。

研修会運営に対する意見としては、「プログラムデザインまで学びたい」「ファシリテーションの第二弾を希望」など、次回に繋がる意見が聞かれた。今年度のスケジュールは一日を設定したが「長時間でなかなか根気がいるがそれ以上に得るものが大きく、あっという間だった」との意見が聞かれた。

<今後の課題>

今年度は、参加費を 5 千円とした。同朋会からの 10 万円の助成金を得て運営した。前日に来校していただいた講師と会場を設営し必要物品を確認したことで、円滑に運営できた。会場までの経路に迷った参加者がいたため、案内図の見直しが必要である。また、チラシに口座番号を記載しなかったため、振り込みが困難な参加者がいたため、次年度には明記したい。



中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会

<事業評価>

令和 6（2024）年度は、昨年に引き続き、新人向けのシミュレーション教育のシナリオ作りや準備、運営のヒントを学ぶことを目的に、「新人看護師のためのシミュレーション教育－はじめの一步－」というテーマで、東京医科大学の阿部教授を招聘し、研修会を開催した。研修では、シミュレーション教育での理論や実践のための手順などについて学んだ。その後、研修参加者がそれぞれ看護師と患者および指導者役となり、シミュレーション研修の場面を再現し、具体的なファシリテーションスキルを実践しながら学んだ。

56名の参加があり、アンケート回答率は100%を得られた。研修会の満足度は高く、満足が77%、やや満足が23%であった。「演習で実際にシミュレーションを繰り返し体験することで、具体的な学びや気づきが多く得られた。」など、シミュレーション教育でのファシリテーションスキルを学ぶことができ、研修の目的はおおむね達成できたと考える。一方、「もう少し時間があればグループのメンバーとお互いの悩みを共有したりできたのではないかと少し残念です。」など、全体の時間が短かったという意見もあった。今回は講師の都合により、午後のみで開催となったが、次年度は時間的に余裕のある研修を企画していく。

<今後の課題>

劇場型の会場にしたことで、すべての席から、演習の様子を見ることができ、7割以上の参加者が「会場が適切であった」と評価した。しかし、一部の席では演習の様子が見えにくいところがあり、机の向きをあらかじめ中央に向けるなどの工夫が必要であった。台風14号の進路変更で開催の検討が必要となった。あらかじめ対応方針を決めておく必要がある。



臨床指導者研修会-共に創るポストコロナ時代の看護実習教育 -

<事業評価>

本学は、保健師課程、助産師課程の実習を含め約50施設に実習の協力をいただいている。令和4（2022）年度から「臨床看護職連携部門」の運営として位置付け、臨床指導者の指導力向上や新人教育の質向上に寄与することを目的に実施している。

令和6（2024）年度は、本学にて対面のみの研修としたため、リフレクションやグループワーク等、活発にディスカッションとなった。実習指導者や新人教育・後輩育成に携わる指導者などが参加し、そのうちほとんどが全課程を受講していた。第1回30名、第2回28名、第4回29名、第5回31名、延べ118名が受講、28名が全課程を修了し修了証書を授与した。

本研修会全課程終了時のアンケートでは、「非常に満足」「おおむね満足」が8～9割を占めており、「自分の経験だけでなく、教育や実習指導の理論的知識や学習者の心理などを学ぶよい機会となった」「学生指導や後輩指導など自分の指導を振り返る機会となった」「リフレクションを繰り返し、実践に活かせるようにしたい」などのように学びを実践へ活用する必要性について考える機会となったようである。

<今後の課題>

本研修会におけるリフレクションのグループワークでは、担当委員がファシリテーターを行った。次年度も引き続き、ファシリテーターとしてのスキル向上に努め、担当できる委員を増員できるよう計画する。

令和6年度 臨床指導者研修会 プログラム		
第1回 令和6年6月13日（木）		
時間	プログラム内容	講師
8:50～9:00	開講式/オリエンテーション	HCC運営委員会
9:00～10:30	絵本で学ぶヒューマンクアリング	矢野博史
10:40～12:10	教育原理－教育という自明性の再検討－	矢野博史
13:30～16:10	リフレクションの概念	田村由美
第2回 令和6年7月25日（木）		
時間	プログラム内容	講師
9:00～10:30	教育方法－教員は学習の基礎理論－	矢野博史
10:40～12:10	社会の変化に対応する高等教育としての看護基礎教育と看護実習	村田由香
13:00～14:30	対人関係論	戸村道子
14:40～16:10	実習指導の実態 実習指導計画立案	村田由香
第3回 8月～9月 自施設における実習指導者を用いた臨床指導者実習 学習ポートフォリオの作成（コーネル式）		
第4回 令和6年11月7日（木）		
時間	プログラム内容	講師
9:00～12:10	実習指導の実践のリフレクション	村田由香 HCC運営委員会
13:00～14:30	看護理論 看護の概念、看護の知と実習指導	山村美枝
14:40～16:10	看護倫理 実習指導における倫理的課題	川西美佐
第5回 令和6年12月12日（木）		
時間	プログラム内容	講師
9:00～12:10	発達障害及びその特性を持つ学生の理解と実習指導	大森寛和（山形県立保健医療大学 看護学部）
13:00～14:30	教育心理－看護学生及び学習者の心理－	丸山愛子
14:40～16:10	実習指導からの学びの共有/ディスカッション 課題と今後のchallenge	村田由香 HCC運営委員会
16:10～16:20	修了式/修了証授与	HCC運営委員会



看護師長のためのリフレクション研修会

<事業評価>

昨年度から、ヒューマンケアリングセンター共催により、開催している自主企画研修会である。この研修の目的は、看護師長がリフレクションスキルを習得することである。スタッフのリフレクションを支援するためには、まず、看護師長がリフレクションの実践者であり、スタッフのファシリテーターとなるスキルを身に付けておくことが重要であるという発想から、本研修会を開講している。

13名の参加があり、6月～11月まで毎月土曜日の午後2コマ研修会を開催した。終了後のアンケートには「マネジメントをする上で、対象者を知る事も大事だが、なによりも自己を知り、自分が選択していく内容の傾向を知っておく事も重要」ということに気づくことができたという感想があった。また、「譲れない価値や、経験に裏打ちされる知識、技術など、専門職である自分の全貌を改めて見直すことが出来た。自分の価値も認めながら、他者との対話を積極的に行い、リフレクションしていきたい。」と、看護師長がリフレクティブであることの意味付けができていくことがわかる感想もあった。

リフレクションは、ハウツーで修得できるものではなく、何度も自分の経験を深く自己洞察をすることで、思考の習慣化ができるように、自分が変化していくことを体感することができる深い学習である。

最終回終了後のアンケート結果も概ね満足度が高かった。

<今後の課題>

1病院4名まで参加可能として募集したが、今年度は、参加できない理由に、病棟移転があったり、病院機能評価の受審などがあった。次年度も、4月から広報を実施して、20名を目標に広報する予定である。

2) 地域連携部門の活動

あいプラザまつり

<事業評価>

あいプラザまつりにて「体験してみましょう！～身近なもので誰にでもできるけがの手当て」を行った。内容として、出血を伴う傷の手当て(直接圧迫止血法)、捻挫の手当て、前腕のけがの手当てのデモンストレーションと体験を行った。

参加者の反応としては、手当ての紹介に留まった場合は、参加者からの反応は薄かった。説明のみでは、参加者を呼び込むことも難しかったため、実践・体験を重視した方法に変更とした。すると、来場者は、足首捻挫の際の三角巾や代用品(ストールや風呂敷)を使用した足首固定を実際に体験することで、その固定の効果を体験することで好評価があり、その様子は新たな来場者を呼び込むことにつながっていた。三角巾は一般的な物品ではなく、日頃から携帯することは難しいが、風呂敷はサブバックとして使用できるだけでなく、手当てに活用できることを知り、バッグに入れるようにしたいなどの声が聞かれた。また、腕吊りのためにレジ袋の活用する方法も大人には新たな発見であり、子どもは楽しんで受け入れられていた。参加者の内訳は、幼児 2 名、小学生 7 名、中学生 1 名、～39 歳 5 名、40～64 歳 10 名、65～74 歳 13 名、75 歳～3 名であった。学生ボランティアは、3 名の参加があった。

<今後の課題>

あいプラザまつりの開催日程が、3 連休の中日であり、学生ボランティアの確保が困難であった。早めの募集が必要である。あいプラザまつりの開催が、昨年までと異なり、福祉部門が別日、子ども祭りと同日開催となったことから、幅広い年齢層を対象としたテーマを選定していくことが有用であると考えた。

今年度の実施内容は継続できると考える。赤十字救急法のチラシを配布できるよう準備したり、赤十字救急法、大学ののぼりを立てたりなどで実施内容をアピールする工夫が必要である。



<事業評価>

フジグランナタリー25周年のメモリアル事業の中核として、健康と介護の情報発信イベントを、フジグランナタリー・行政・民間一体となり発信を行うことを目的で行われ、本学も10月11日（金）・12日（土）の2日間参加した。1日目は、「気になる身体のこと、相談にのります！」（保健師教育課程の学生による脱水予防や転倒・骨折予防の健康教育と健康相談）、10月12日（土）は「大切な命を救う！救急法」（心肺蘇生法）というテーマで行った。1日目は、高齢者の参加が多く、健康教育に16名、健康相談に9名の参加があった。来場者からは、「勉強になった」「気を付けよう」「知らなかったことが知れてよかった」など声が聞かれた。2日目は、小学生から高齢者まで38名の参加があった。親子で参加されたり、これまでやったことはあるが復習のため体験するという人も多かった。

<今後の課題>

様々な世代が買い物のついでに参加することが多かった。そのため、健康教育は1回あたり10分程度、心肺蘇生法もあまり時間をかけない形で体験をしてもらうようにするなど、方法の工夫をすることで集客をしていった。ショッピングセンターという場所では、1度に多くの集客は難しいため、今後も開催時間や開催方法の工夫をしていく。また、土曜日の心肺蘇生法はニーズも高かった。子どもの参加が多かったことや小児の心肺蘇生法についての質問もあった。今後、成人向けだけでなく子どものモデルでも体験できるブースを設けていく必要がある。



地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト

<事業評価>

令和 5（2023）年度より、本学教員の研究活動を地域に還元する目的で開催している。令和 6 年度は、年間 4 回開催とし、第 1 回 6 月 3 日「アロマで癒されよう！」参加者 16 名、第 2 回 11 月 19 日「楽しい！をつくるレクリエーション講座」参加者 18 名、第 3 回 1 月 27 日「中高年女性のボディトリートメント」参加者 12 名、第 4 回 3 月 25 日「春を探して健康ウォーク」を行った。第 1 回では、本学アロママッサージ部の学生によるハンドマッサージを行い、学生との交流が深まった。参加者は心を癒す機会になったようであり、適宜健康相談も行った。第 2 回では、地域サロンの実践メニューの参考となるよう、脳トレや体操を取り入れたレクリエーションを行い、楽しく学習された。第 3 回では、女性の更年期障害の予防にもつながる興味のあるテーマであり、参加者自身のスキルアップを目的に参加された方がほとんどであった。第 4 回はウォーキングへの関心が高く、参加者の希望により、この時期に毎年継続して開催することとした。学生（ボランティア・アロマ部）の活躍もあり、どの回も参加者の反応がよく、地域のニーズに対応した内容になったと考える。また、会場のヒューマンケアリングセンターは、玄関からも近く、参加者に入ってもらいやすい位置にある。実施内容によって、多目的室など会場を変更して行ったが、迷う人もなく開催することができた。

<今後の課題>

プロジェクトの内容によって事前申し込み必須とする、会場は実施内容に応じた部屋を検討するなどの運営の工夫が必要である。ウォーキング講座は好評であったため、毎年実施することとした。この事業は、次年度から年 3 回実施とし、地域の方と交流をしながら生涯学習拠点となるよう継続事業として整備する。



阿品台いきいきプロジェクト後継事業

<事業評価>

阿品台市民センターと共催し、本学の教員が健康づくりに関連した講座を開催した。テーマは「ヒートショックにご用心！」とし、昨年芸能人の死亡により、特に関心がもたれるようになった事象を取り上げた。受付の後に血圧測定など健康チェックを行った。初めに軽い体操を行い、身体をほぐし、なごやかな雰囲気が始まった。内容は、ヒートショックのしくみ、参加者の日常生活の振り返りをしてなりやすい特徴を理解する。その後、家を温かくする方法や適切な入浴方法などの対策をグループワークで検討した。ヒートショックを地域の皆さんで予防するために、家の中に張っていただくチラシもお持ち帰りいただいた。アンケートから、お風呂の入り方が分かった、家族が声を掛け合ようにする、家の中の保温の工夫を実践しようとされる具体案も出ていた。感染対策にも考慮し、間隔をあけて座り、19名の参加があった。学生のボランティアが2名参加し、血圧測定やグループワークに参加するなどして、参加者と交流を図ることができた。

広報においては、阿品台市民センターの協力により、市民センターだよりで広報し、市民センターへチラシと申込書を設置し、電話申込み受付も可能とするなどの対応により、周知が図られた。

<今後の課題>

今後も、地域住民のニーズに応じたテーマを取り入れながら、阿品台市民センターと連携して地域住民の健康の保持増進を推進する事業を継続する。

いいき健康づくり講座
~ヒートショックにご用心~

参加費
無料
(先着30名様)

入浴中の事故は、高血圧
など持病がない人でも
おこる場合があります。
入浴中の事故を防ぐ方法
を学びましょう！

日程 2025年2月26日(水)
時間 13時30分~15時
場所 阿品台市民センター第3研修室
講師 水馬 朋子 (日本赤十字広島看護大学)

申込み方法: 阿品台市民センターへ直接お申込みください。

お問い合わせ 日本赤十字広島看護大学 TEL 0829-20-2806
阿品台市民センター TEL 0829-39-4338

主催: 日本赤十字広島看護大学 共催: 阿品台市民センター



<事業評価>

「知ってて安心一次救命処置」をテーマに、胸骨圧迫(心臓マッサージ)やAED(自動体外式除細動器)を用いた電気ショックの方法について講義と実技練習を行った。参加者は、20歳以下4名、40歳代4名、50歳代3名、60歳代3名、70歳代4名、80歳代以上1名の計20名であった。

講座は、一次救命処置の流れについての講義を受けたのちに、心肺蘇生訓練用人形を用いて実技練習を行った。その結果、終了後のアンケート(回収率95%)では、回答者19名全員が「とても分かりやすかった」としており、全体として高評価が得られた。参加者からは、「復習になった」や「2人1組で実技練習ができたため効率的に実施ができた」などのコメントがあった。

20歳代以下の参加者は学校からの紹介で今回の講座を知っており、将来医療従事者を志す学生にとってはニーズが高い内容であったと考える。

<今後の課題>

公開講座をどのように若い世代に発信していくかが例年課題であったが、今年度は高校の先生が紹介されたこともあり、20歳代以下の参加者の確保につながった。公開講座の内容によっては、大学近隣の高校に向け発信をする必要がある。



**令和6年度
日本赤十字広島看護大学 公開講座**

あなたの勇気が
命を救う

知ってて安心 一次救命処置

心肺蘇生訓練用人形 を用いた心肺蘇生をおこないます
当日は動きやすい服装でご参加ください

開催日 令和7年3月2日(日)

時間 14:00~15:00(13:30開場)

場所 山崎本社みんなのあいプラザ 1階 多目的ホール
(廿日市市新宮一丁目 13-1)

対象 どなたでも (参加費無料)

講師 宗内 桂 (日本赤十字広島看護大学 看護教育学・看護管理学 講師)

申込み 二次元コード もしくは メール

メールの場合は、次の内容を入力してお送りください
件名: 公開講座
本文: ①氏名、②年齢、③住所・町まで、④電話番号
宛先: human@jrchn.ac.jp



【お問い合わせ】日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター
ℓ 0829-20-2806 ✉ human@jrchn.ac.jp

主催: 日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター
共催: 廿日市市・廿日市市教育委員会



3) 学生ボランティア部門の活動

認知症サポーター養成講座

<事業評価>

認知症サポーターは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けし、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに貢献するために、養成されている。本学学生に対し、看護職として地域で生活する認知症の人とその家族への支援方法について理解を深めることができることに加えて、認知症の人やその家族を支援する地域住民の一員として、活動できることを期待し、廿日市市社会福祉協議会との共催のもと、1年生を対象に開催した。また、本年度から、廿日市市地域包括ケア推進課（地域包括支援センター）のものわすれ相談とも共催し、地域住民にも公開した。講師として廿日市市キャラバン・メイトのメンバーを講師に迎え、①認知症サポーター養成講座とは ②原因疾患別の行動・心理状態の特徴 ③認知症になりにくい生活 ④認知症の人の「内的世界」を理解する事例演習 ⑤DVD鑑賞を通して学んだ。参加者は、学生135名、一般（地域住民）14名の合計146名であった。講義の満足度は、大変よかった、よかったが、一般の方は91.0%、学生は99.0%であった。また、認知症サポーターの役割と何をすればよいかの理解度：よくわかった、わかったが、一般の方は46.0%、学生は99.0%を占めていた。認知症のある方に対して、受講前は、関わり方がわからない、介護する周囲が大変、怖いというイメージがあったが、受講後は、認知症の方の言動には意味がある、一人の人間として捉え、理解し寄り添うことが大切であることを理解していた。また、認知症サポーターとして、認知症のある方と積極的に接し、見守りやサポートを行っていきたいという意見が多かった。参加者全員に対し、認知症サポーターの印である、「認知症サポーターカード」を交付された。講座への参加によって、学生や地域住民の方々が認知症への理解を深め、実際の地域での支援へと繋げてほしいという目的は達成されたといえる。



<今後の課題>

本講座は一般向けのわかりやすい内容であり、参加者にとって、認知症の方への偏見の払拭や接し方の理解につながっていたといえる。今後も、社会福祉協議会、廿日市市地域包括ケア推進課と協働し、本学1年生及び地域住民を対象に、同様の時期に開催をする。

ゲートキーパー養成講座

<事業評価>

ゲートキーパー養成講座は、学生が自殺予防対策への理解を深め、その視点を学生生活や将来の職務に活かしてもらうこと、また、コロナ禍を経験した学生にセルフケアの手法について学んでもらうことを目的として今回はじめて開催された。内容としては、①廿日市市健康福祉部健康福祉総務課健康づくり係より、ゲートキーパーの必要性、廿日市市自殺対策計画「いのちを支える廿日市プラン」(第2次)の説明 ②広島大学保健管理センター長 岡本百合氏の講演 ③グループワーク ④グループごとにディスカッションして発表、最後に学生からの感想や質問を受けた。3人が1グループとなり準備されたシナリオを基にグループワークを行い、ディスカッションシートを使用してディスカッション後、グループごとに発表を行なった。このディスカッションではいろいろな学びがあり、相談者に対する寄り添いが必要な場合にはゲートキーパーとしていつでも話を聴く姿勢をつくりたいという学生もいた。

参加者は、学生35名、教員2名の合計37名であった。参加した学生へのアンケートでは、講座を受けた満足度:満足、概ね満足が95.5%、講座の時間:適当であるが68.2%、『ゲートキーパー』という言葉の認知度:知らないが81.8%を占めていた。また、今回の講座を受けて取り組んでいきたいこと、意識していきたいことがあると回答した学生が90.9%だった。講座への参加によって、ゲートキーパーの必要性を理解し、実際に活用や支援へと繋げてほしいという目的は達成されたといえる。



<今後の課題>

本講座の受講により精神的に負担がかかる学生もいるため、事前に内容を伝えて参加の呼びかけを行なう必要がある。また、今後の学生生活を過ごす上で、入学後の1年生を含め、多くの学生に参加して欲しい。今後は、1年生を対象に、同様の時期に開催をする。



学生へのボランティア活動の推進

令和 4（2022）年度から、学生ボランティアやイベントの参加募集の総合窓口として学外のニーズと学生のマッチングを組織的に行うことを目的に活動を開始し、昨年度と同様に学生へのボランティア活動を推進している。

方法としては、ヒューマンケアリングセンターが主に廿日市市や、市内の団体と連携し、学内での募集サイトでボランティアやイベントの参加募集の告知を行っているため、学生はスムーズに閲覧できるようになった。内容に応じて、学生が応募用入力フォームで申し込み、学内でとりまとめて団体等への申し込みを実施するなど、スムーズな参加ができるようにした。また、活動用のユニフォームの支給など学生の活動をバックアップしている。

参加した学生は、ボランティア活動参加後に学びや気づきなどをヒューマンケアリングセンターに報告し、ヒューマンケアリングセンターは、さらなるボランティア活動を奨励するためまた交通費の代替として一律 QUO カードを進呈した。

学生ボランティアの募集依頼は 105 件と昨年度より増加した。また、病院や教育、医療介護等に関連するアルバイト 15 件及びセミナー 1 件の紹介を行った。

また、ボランティア活動への意識を高めるために、1 年生を対象にボランティア講習会を開催した。今年度は、ボランティア講習会を受講した 1 年生の活動者数が多かった。

学生のボランティア活動の実績（抜粋）・アルバイト情報（抜粋）

ボランティア

活動日	ボランティア 内容	人数 (人)	学生の感想 (一部抜粋)
4 月 14 日	「第 4 回シティロ ゲ in 宮島」ボラン ティア	5	高校生のボランティアの方々と関われたのでいい機会になった。また、参加者には色々な層の年齢の方がいて多くの方とお話を通じて交流することができた。健康のために体を動かし続けることが大事だということを学ぶことができた。
4 月 20 日 6 月 8 日 9 月 14 日 10 月 5 日 11 月 30 日 2 月 22 日	「ATSUKO'S ベビ ーマッサージ」のサ ポート	20	生まれて間もないお子さんを持つお母さん達がどんな不安を抱えているのかや、どのように接していけばいいのかなどが学べました。また、それぞれの家庭のお子さんを見たことで、いろんな子供がいるということを改めて感じ、それぞれにあった対応の仕方を探ることが大切なんだなと気づいた。

5月19日 11月23日	「竹の子の会」 15番目の染色体に 異常があるブラダ ーウィリー症候群 の子のサポート	12	今回の活動を通して、子どもたちの思いを尊重しながら遊んだり、目を見て笑顔で話したりすることができた。今回は、2人ずつになり2人の子どもたちの見守りを行ったが、2人だけでなく、他の子供たちとも遊んだりコミュニケーションをとることができた。
6月7日	「みんなの食堂」in 自然のめぐみキッ チン運営サポート	2	子ども食堂はご飯を食べることだけが目的ではなく、地域の子どもや親が集まりコミュニケーションをとることができる場であることを知った。 2歳～12歳の子が同じ空間で遊び、ルールを決めず子どもの主体性に任せてのびのび遊べる場が身近にもあることを知ることができた。 喧嘩が起きてしまった時の大人の対応を実際に見ることができ、自分だったらどう解決するかを考えることができた。
6月9日	「広島県西部知的 障害関係施設親善 球技大会」の運営 サポート	12	普段知的障害の方と触れ合う機会がないが、関わってみて、集中力が少しなかったり、動きにくかったりするだけでみんな楽しく球技をすることが出来るという関わり方を学べた。
6月15日・16 日	「こども夢の商店 街」のサポート	29	こどもが自分の力でお店を開いたり、会場に設けられた銀行や警察などの職場で働く姿をサポートして、一人ひとり性格が違いどのように個性を引き出すかを考えたり、この子は何を考えているのかを自分で想像しながら接することができた。また、保護者とのコミュニケーションも密接にとることができた。
6月29日	防災キャンプ in 串 戸	6	沢山の子どもさんと関わることができ、地域のつながりの深さが分かった。 小学生の子たちが一生懸命救急法をしているのを手伝って、救急法の活用の際の広さを改めて考えることができた。
7月20日・21 日	「第25回日本赤十 字看護学会学術集 会」の運営サポート	25	話の内容が自分的には難しくて、まだまだ未熟だなと感じた。学会に参加する機会はほとんどないと思うので、貴重な経験になった。
9月13日	「府中南小学校 い のちの授業」サポー ト	7	小学生が授業や体験を通していのちの誕生について触れることができるようにサポートをすることができて良かった。

9月14日	「ぽこぽこトレイン」障害のある子もない子も関係なく遊べるオープンスペースで子どもたちと遊ぶ	1	障害を抱えている子、そうでない子、気持ちが繊細な子、などさまざまな個性を持った子供達が一緒に遊ぶことで関わっていく光景を何度も目にした。ご家族がそばにいらなくても自分から積極的に参加しようとする子の姿勢や努力が垣間見れて、子供の成長過程を間近で感じることができた。
10月23日	「災害看護学Ⅱ」での避難者役	19	活動を通して、一人で避難してきて心細い気持ちや、家族の安否が分からず不安で、避難所にいるより探しに行きたいと思う避難者側の気持ちを体験することができた。一人で、地震が起きた不安だけでなく、これからの不安もある中、救護者の方々が定期的に様子を確認しに来てくださったり、避難者の安全を考えた対応をしてくださることは、避難者が落ち着いて避難所にいるために重要なことだと感じた。
11月3日	「あいプラザまつり」の運営サポート	7	身近なもので応急処置することができるということを知り、私自身も活用して行きたいと思った。 このような地域の祭りで障害がある人、病を抱えた人、子どもがいる家庭など様々な人が関われる機会があるのはいいなと思った。
11月30日	「ウォーキングリーダー会交流会」のサポート	5	地域の複数のボランティアが協力をして健康な身体を目指して、適切な運動や食事を学べるイベントだった。講師に運動についての講演会をしてもらうことで、根拠を持って適切な運動を行えるよう促していた。食事は献立を記載した資料を配布することで家でもバランスの取れた食事を摂取できるように工夫されていた。
12月14日	「どんな時でも命は輝く」特別講演会運営スタッフ	4	家で最期を迎えることを望んでいても、病院で最期を迎えることがが多いのが現状で、それを広めるためにはまず家での看取りができるということを広めることが必要だと学んだ。
12月14日	廿日市市障害者福祉協会主催「第21回クリスマス会」のサポート	7	地域で障がい者の人たちが集まれる機会があることで、障がい者の人が社会参加できる機会となり、住みやすい場所になっていくことがわかった。一般の障がい者に加え、就労支援施設の方も参加しており、地域で暮らす障がい者が活用できる場にもなっていた。

2月9日	「串戸地区かき祭り」のサポート	6	地域の人々に向けた一大イベントとして、様々な業者や協議会の方などの連携があった上で成り立っている祭りであることを実感した。地域住民との貴重な交流の場として、円滑な進行を図れるよう各々の役割を果たした上で、積極的に自ら仕事や手伝いを探す自主性が必要であると感じた。
毎週木曜	夢あじなサロン		阿品台市民センターで開催されているサロンで、百歳体操を実施したり、食事を通して交流
第2・4木曜	すくすくサロン(子育てサロン)		サロンのサポート 子どもの遊び相手 お母さんの話相手 季節の行事(クリスマス会など)
第1・3金曜	0歳児のママ達のさわやかサロン		サロンのサポート 子どもの遊び相手 お母さんの話相手 季節の行事(クリスマス会など)
第1・3土曜	お茶の間サロン「だんだん」		健康だんだん体操 企画イベント 食事とおしゃべり

アルバイト

年間	b & g 廿日市+ (ビーアンドジーはつかいちプラス)		「家でも学校でもない第三の居場所」として児童の学習・生活習慣の形成・遊びの見守りを行う
年間	JA 広島総合病院		看護補助業務
年間	広島県赤十字血液センター		献血ルーム「ピース」「もみじ」における献血者の受入・接遇及び推進業務等
夏休み	広島市民病院		看護部 夏季アルバイト
夏休み	広島市立北部医療センター安佐市民病院		看護補助業務
夏休み	廿日市市放課後児童クラブ		児童の学習・遊びの見守り
冬休み	広島市民病院		看護部 冬季アルバイト



認知症高齢者支援会議

<事業評価>

廿日市市社会福祉協議会主催の会議が隔月で行われている。参加団体は廿日市市（高齢介護課、健康推進課、地域包括支援センター）、廿日市市認知症の人と家族の会、廿日市市大野認知症の人と家族の会、認知症になっても安らぎのある廿日市市をつくる市民の会、廿日市高齢者支援センター、老人クラブ連合会、廿日市市社会福祉協議会、日本赤十字広島看護大学である。参加する機関では、はいかいSOS ネットワーク、はいかい高齢者家族支援サービス、認知症サポーター養成講座、認知症関連の講演会等を企画実施しており、この会議において関係機関に周知し、効率的かつ円滑な運営ができるよう情報共有に努めている。

この会議の目的は、関係団体の情報交換の場であったため、年 4 回開催されていたが、今年度をもって、会議は終了となった。

学内教員の社会活動

田村 由美

【社会活動】

- 田村由美（2024）．常務理事．日本赤十字学園．
- 田村由美（2024）．理事．日本赤十字学園．
- 田村由美（2024）．委員長．教育 DX 推進委員会．
- 田村由美（2024）．委員．赤十字の教育研究推進委員会．
- 田村由美（2024）．議長．学部長・研究科長会議．
- 田村由美（2024）．評議員．日本看護学教育学会．
- 田村由美（2024）．会員校代表 日本看護系大学協議会．
- 田村由美（2024）．会員校代表 日本私立看護系大学協会．
- 田村由美（2024）．代議員．日本看護科学学会．
- 田村由美（2024）．理事．放射線被曝者医療国際協力推進協議会．
- 田村由美（2024）．理事．教育ネットワーク中国．
- 田村由美（2024）．組織会員代表．日本災害看護学会．
- 田村由美（2024）．委員．廿日市市保健福祉審議会．
- 田村由美（2024）．委員．廿日市市総合計画審議会．
- 田村由美（2024）．企画委員長．日本赤十字看護学会第 25 回学術集会企画委員会．
- 田村由美（2024，1－3）．評議員．日本赤十字学園．
- 田村由美（2024，1－3）．委員．日本赤十字学園グランドデザイン等策定検討委員会．
- 田村由美（2024，1－3）．委員長．日本赤十字学園入試制度グループワーキング．
- 田村由美（2024，1－3）．理事．日本私立看護系大学協会．
- 田村由美（2024，1－3）．委員長．日本私立看護系大学協会 国際交流委員会．
- 田村由美（2024，1－3）．理事．日本教師学学会．
- 田村由美（2024，1－7）．理事．日本赤十字看護学会．（編集委員会委員長）
- 田村由美（2024，1）．講師．「看護リフレクション」，中国電力株式会社中電病院，広島市．
- 田村由美（2024，5－11）．講師．「師長のためのリフレクション①～⑤」，日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター，廿日市市．
- 田村由美（2024，6）．講師．「リフレクションの概念」，日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター 臨床指導者研修会，廿日市市．
- 田村由美（2024，7）．座長．第 25 回日本赤十字看護学会学術集会 シンポジウム I 「多職種連携の本質」，廿日市市．

田村由美（2024， 7）. 非常勤講師.「早期体験学習」IPW 講座，神戸薬科大学，神戸市.
田村由美（2024， 8）. 講師.「リフレクションを上手に活用する」，岩手県看護教員スキル
アップ研修会，WEB 開催.
田村由美（2024， 8）. 非常勤講師.「看護教育におけるリフレクション」，獨協医科大学，
栃木県.
田村由美（2024， 8 -11）. 講師. [ひとと組織の成長を促す看護におけるリフレクション]，
広島県看護協会，広島市.
田村由美（2024， 10）. 講師.「広島県専任教員継続研修会」，広島県看護協会，広島市.
田村由美（2024， 12）. 座長.「Session3 (oral presentation)」 「Report from the Frontline
of Disasters」，第 8 回世界災害看護学会（WSDN），神戸市.

【学会発表】

宗内桂，田村由美，吉田みつ子，中川典子，濱田真由美，谷口千絵，木村勇喜，吉田和美，
小野芳子，近末清美（日本赤十字看護学会編集委員）（2024， 7）. 査読者の視点から見た
学会誌－査読体験の中から学ぶ－・第 25 回日本赤十字看護学会学術集会 交流セッシ
ョン 7，廿日市市.
篠原謙太，村田由香，田村由美（2024， 7）. 血液透析開始時のシャント穿刺前にシャント
狭窄の発見は可能か？，第 25 回日本赤十字看護学会学術集会示説第 12 群，廿日市市.
野村悠美子，篠原謙太，田村由美（2024， 7）. 単科大学における多職種連携学習（IPL）
の効果と課題・第 25 回日本赤十字看護学会学術集会 口演第 9 群 0-37，廿日市市.
藤谷克己，鈴木里砂，木田亮平，村田由香，田村由美，松下博宣（2024， 8）. 多職種連携
協働におけるリーダーシップの機能－コラボレイティブ・リーダーシップが与える影響
について，第 56 回日本医学教育学会大会，東京.

村田 由香

【学会発表】

村田由香，宗内桂（2023）. 中堅看護師のリーダーシップ開発に関する研究 - 研修効果の
評価. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市.
村田由香（2024）. 看護職の人材育成の本質. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会，廿日
市市.
藤本美保，村田由香（2024）. パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）を導入し
ている部署で教育的立場の看護師のパートナーシップ行動と自己効力感との関連. 第 25
回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市.
福田優子，村田由香（2024）. COVID-19 対応のための病床編成で予期しない配置転換を
した中高年看護師の経験. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市.

今井多喜子, 三輪晃子, 宗内桂, 篠原謙太, 門田清孝, 水馬朋子, 村田由香 (2024). 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む教育方法: 学生主導の「看護の基盤実習 I」の成功例から. 第 35 回日本看護学教育学会学術集会, 東京都, ハイブリット開催.

【社会活動】

村田由香 (2024). 委員. 廿日市市国際化・多文化共生推進懇話会.

村田由香 (2024). 委員. 廿日市市事故調査委員会副委員長.

村田由香 (2024). 委員. 看護生涯教育・研修センター会議委員長, 広島県看護協会.

村田由香 (2024). 専任査読委員. 日本赤十字看護学会.

村田由香 (2024). 専任査読委員. 日本看護管理学会.

村田由香 (2024). 評議員. 日本看護管理学会.

村田由香 (2024). 理事. 日本赤十字看護学会.

村田由香 (2024). 理事. 日本教師学学会.

村田由香 (2024). 会長. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

村田由香 (2024). 座長. 第 26 回日本看護管理学会学術集会, 名古屋国際会議場, 名古屋市.

村田由香 (2024). 講師. 認定看護管理者ファーストレベル教育課程 第 1. 2 期 組織管理理論 I, 広島県看護協会, 広島市.

村田由香 (2024, 1). 講師. 看護管理者研修会 愛媛県看護協会, 松山市.

村田由香 (2024, 6). 講師. 若手リーダーのためのリーダーシップ研修会, 愛知県看護協会, オンライン.

村田由香 (2024, 8). 講師. リーダーシップ研修, 日本赤十字和歌山医療センター, 和歌山市.

村田由香 (2024, 8). 講師. 新人看護職員研修事業 (実地指導者研修), 山口県看護協会, 防府市.

村田由香 (2024, 8). 講師. 認定看護管理者ファーストレベル教育課程, 看護記録, 日本赤十字社幹部看護師研修センター, オンライン.

【学外からの研究助成】

村田由香, 宗内桂, 篠原謙太, 野村悠美子. 中堅看護師のオーセンティックリーダーシップ開発プログラムの検討. 基盤研究 C (一般), 令和 5 年度 - 令和 7 年度.

篠原謙太, 村田由香. 多職種で活用するシャント閉塞予防に向けたシャントモニタリングプログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 4 - 7 年度.

扇原淳, 水馬朋子, 村田由香. 地域の声を反映した防災教育をコアにした参加型共同プラットフォームの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究, 令和 5 – 8 年度.

百田 武司

【著書】

百田武司(2024). 脳神経外科救急初療処置にかかわる看護. 日本脳神経外科救急学会(編).
すぐ役立つ脳神経外科救急ハンドブック改訂 3 版, 100-104, メディカ出版.

【学術雑誌等掲載論文】

佐藤美紀子, 百田武司 (2023). 脳卒中後疲労のセルフマネジメントの概念分析, 日本看護科学会誌, 43, 622-633. 公開日 2024/03/06, DOI <https://doi.org/10.5630/jans.43.622>

百田武司(2024). 一般社団法人日本脳神経看護学会への移行. 日本脳神経看護研究学会誌, 46 (2), 129-130.

百田武司(2024). 日本脳神経看護研究学会名誉会員授与報告. 日本脳神経看護研究学会誌, 46 (2), 163-164.

佐藤美紀子, 百田武司 (2024). 脳卒中後疲労 (Post-Stroke Fatigue) に関する国内外の文献レビュー. 日本看護研究学会雑誌, 47 (2), 241-261. DOI <https://doi.org/10.15065/jjsnr.20230714233>

宮本享, 小笠原邦昭, 橋本洋一郎, 藤本茂, 竹川英宏, 和田邦泰, 井口保之, 片岡大治, 豊田章宏, 富永悌二, 百田武司, 武田保江, 田村綾子, 大久保暢子, 野口百香, 早坂由美子, 林真紀, 星野由利子, 藤井由記代, 取出涼子, 笠松信幸, 和久美恵, 斉藤秀之, 大畑光司, 立石雅子, 深浦順一 (2024). 脳卒中相談窓口マニュアル 一般社団法人日本脳卒中学会 Version 3.0 (2023. 3. 19). 1-47, STROKE 2024HP, <https://drya6oj4l6mwc.cloudfront.net/public/live/lp/stroke2024/tasyokusyu/%E8%84%B3%E5%8D%92%E4%B8%AD%E7%9B%B8%E8%AB%87%E7%AA%93%E5%8F%A3%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB.pdf>

百田武司 (2024). はじめに. Brain Nursing, 40 (6), 3.

佐藤美紀子, 百田武司 (2024). 〈1 記憶障害〉1 今も仕事をしていると思っている患者 (作話). Brain Nursing, 40 (6), 8-13.

佐藤美紀子, 百田武司 (2024). 〈1 記憶障害〉2 朝食を食べたのに「まだ食べていない」と訴える患者 (前向き健忘). Brain Nursing, 40 (6), 14-18.

山崎克仁, 木下真吾, 百田武司 (2024). 高次脳機能障害に対する反復性経頭蓋磁気刺激治療. Brain Nursing, 40 (6), 27-28.

- 山根悠紀, 百田武司 (2024). 〈3 読字と書字の障害〉5 新聞の書き写しができなくなった患者 (失読失書). Brain Nursing, 40 (6), 29-33.
- 山根悠紀, 百田武司 (2024). 〈3 読字と書字の障害〉6 時計が読めずリハビリの時間を守れない患者 (失算). Brain Nursing, 40 (6), 34-38.
- 佐藤美紀子, 百田武司 (2024). 〈4 行為の障害〉7 歯ブラシで髪をとく患者 (観念性失行). Brain Nursing, 40 (6), 43-47.
- 佐藤美紀子, 百田武司 (2024). 〈4 行為の障害〉8 右手でコップを持とうとすると左手が邪魔をする患者 (拮抗失行). Brain Nursing, 40 (6), 48-51.
- 佐藤美紀子, 百田武司 (2024). 〈4 行為の障害〉9 衣服のボタンのかけ間違いを直せない患者 (着衣障害). Brain Nursing, 40 (6), 54-59.
- 末永綾香, 百田武司 (2024). 〈6 身体意識・病態認知障害〉15 自分の手を「妻の手」と言う患者 (身体パラフレニア). Brain Nursing, 40 (6), 81-85.
- 末永綾香, 百田武司 (2024). 〈6 身体意識・病態認知障害〉16 手足の麻痺を認めない患者 (病態失認). Brain Nursing, 40 (6), 86-90.
- 山本浩子, 百田武司 (2024). 〈7 触覚認知障害〉17 ポケットのスマホをスマホと認識できなかった患者 (触覚性失認). Brain Nursing, 40 (6), 91-94.
- 橘千恵, 百田武司 (2024). 〈8 注意・遂行機能障害〉18 コインランドリーで洗濯ができない患者 (遂行機能障害). Brain Nursing, 40 (6), 95-99.
- 橘千恵, 百田武司 (2024). 〈8 注意・遂行機能障害〉19 隣の人話し声が気になって食事に集中できない患者. Brain Nursing, 40 (6), 100-104.
- 橘千恵, 百田武司 (2024). 摂食嚥下と認知機能. Brain Nursing, 40 (6), 105.
- 橘千恵, 百田武司 (2024). 〈8 注意・遂行機能障害〉20 無気力で寝てばかりいる患者 (アパシー). Brain Nursing, 40 (6), 106-110.
- 百田武司, 橘千恵 (2024). 脳卒中後うつ. Brain Nursing, 40 (6), 111-113.
- 中村もとゑ, 百田武司 (2024). 〈9 社会的行動障害〉21 ささいなことで大声を出し, 暴力を振るう患者. Brain Nursing, 40 (6), 114-118.
- 中村もとゑ, 百田武司 (2024). 〈9 社会的行動障害〉22 過食し, 人のものまで食べてしまう患者. Brain Nursing, 40 (6), 119-122.
- 中村もとゑ, 百田武司 (2024). 〈9 社会的行動障害〉23 看護師にひくいことを言っ
て身体に触ってくる患者. Brain Nursing, 40 (6), 123-127

【学会発表】

Takeshi Hyakuta, Shingo Kishita, Yasuko Yokoi, Yuki Iiyam, Difference Between Recognition of the Importance of Nursing Care to Strengthen ADL to Stroke Patients and Its State of Implementation, 27th East Asian Forum of Nursing

Scholars (EAFONS 2024) conference, 6-7 March 2024, Hong Kong.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2024). 軽度脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化するための看護ケアの実施と関連. 日本老年看護学会第 29 回学術集会, 高知市.

木村幸恵, 百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ (2024). 地域包括ケア病棟看護師の在宅移行支援における多職種協働の実践の因子構造. 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

木村幸恵, 百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ (2024). 地域包括ケア病棟看護師の在宅移行支援における多職種協働の実践に影響する要因の検討. 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

杉町英子, 中村もとゑ, 山本浩子, 百田武司 (2024). 入院中の高齢心不全患者の fatigue (倦怠感・疲労) の実態と影響要因. 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

佐藤美紀子, 百田武司 (2024). 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中後疲労と意欲低下の実態. 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2024). 重症度が中等度の脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化するための看護ケアの実施と関連. 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2024). 重度脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化するための看護ケアの認識と関連. 第 51 回日本脳神経看護学会学術集会, 福岡市.

佐藤美紀子, 百田武司 (2024). 脳卒中後疲労セルフマネジメントプログラム実現可能性試験: 介入後のスキルと疲労・意欲改善関連因子の探索. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

山本浩子, 百田武司 (2024). ハンドマッサージによる認知症高齢者の焦燥性興奮への効果: 無作為化比較試験. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

清水美代子, 百田武司, 野口眞弓, 鎌倉やよい (2024). 就労介護者の仕事と介護の役割遂行における葛藤のアセスメント指標の開発－信頼性・妥当性の検討－. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2024). 重度脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化するための看護ケアの実施と関連. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

中村もとゑ, 百田武司 (2024). 在宅高齢者のドライスキン改善を目指した教育プログラムの効果: 無作為化比較試験による検討. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

【社会活動】

百田武司 (2024). 理事. 日本ニューロサイエンス看護学会.

百田武司（2024）. 社員. 一般社団法人看護系学会等社会保険連合（加盟学会：日本ニューロサイエンス看護学会）.

百田武司（2024）. 査読委員. 日本ニューロサイエンス看護学会.

百田武司（2024）. 理事. 特定非営利活動法人日本脳神経外科救急学会.

百田武司（2024）. 副幹事. 特定非営利活動法人日本脳神経外科救急学会編集委員会.

百田武司（2024）. 社員（代議員）. 公益社団法人日本看護科学学会.

百田武司（2024）. 和文誌専任査読委員. 公益社団法人日本看護科学学会.

百田武司（2024）. 査読委員. 一般社団法人日本老年看護学会.

百田武司（2024）. 代議員. 一般社団法人日本認知症ケア学会.

百田武司（2024）. 副会長. 日本認知症ケア学会広島県認知症ケア専門士会.

百田武司（2024）. 評議員. 一般社団法人日本看護学教育学会.

百田武司（2024）. 専任査読者. 一般社団法人日本看護学教育学会.

百田武司（2024）. 専任査読委員. 一般社団法人日本看護研究学会.

百田武司（2024）. 代議員. 一般社団法人日本災害看護学会.

百田武司（2024）. 講師. JR 広島病院看護部, 広島市.

百田武司（2024）. 外部委員. 特定非営利活動法人日本脳腫瘍学会 脳腫瘍支持療法委員会.

百田武司（2024）. 委員長. 広島市高齢者虐待防止ネットワーク事業 西区運営委員会.

百田武司（2024, 1 - 6）. 代議員. 一般社団法人日本老年看護学会.

百田武司（2024, 1）. 委員. 第 17 回日本性差医学・医療学会学術集会プログラム委員会.

百田武司（2024, 1）. 座長. 第 17 回日本性差医学・医療学会学術集会, 看護師シンポジウム 働き方改革, 広島市.

百田武司（2024, 1 - 3）. 理事長. 日本脳神経看護研究学会.

百田武司（2024, 1 - 3）. 委員長. 日本脳神経看護研究学会社会貢献・広報委員会.

百田武司（2024, 1 - 7）. 会長. 日本脳神経看護研究学会広島地方部会.

百田武司（2024, 1 - 9）. 委員. 日本脳腫瘍学会第 2 回脳腫瘍支持療法研究学術集会.

百田武司（2024, 2 - 3）. 査読者. 日本老年看護学会第 29 回学術集会.

百田武司（2024, 2 - 3）. 査読者. 第 25 回日本認知症ケア学会大会.

百田武司（2024, 2）. 座長. 第 11 回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会. ポスターセッション, 長野市.

百田武司（2024, 2）. 講師. 脳卒中の再発予防, 日本脳神経看護研究学会認定看護師活動推進委員会主催令和 5 年度フォローアップ研修, Web 開催.

百田武司（2024, 2）. 講師. セッション 2：クラゾセンタンによるくも膜下出血の周術期クラゾセンタン導入に関する看護師アンケート, SAH HIROSHIMA SUMMIT, 広島市.

百田武司（2024, 3）. 査読者. 日本看護学教育学会第 34 回学術集会.

百田武司（2024，4－12）．理事長．一般社団法人日本脳神経看護学会．

百田武司（2024，4－12）．委員長．一般社団法人日本脳神経看護学会社会貢献・広報委員会．

百田武司（2024，4－7）．会長．一般社団法人日本脳神経看護学会中国地方部会．

百田武司（2024，5）．査読者．日本災害看護学会第26回年次大会．

百田武司（2024，6）．査読委員．日本脳腫瘍学会 第2回脳腫瘍支持療法研究学術集会．

百田武司（2024，6）．座長．第33回日本脳ドック学会総会，コメディカルシンポジウム「働き方改革とタスクシフト」，広島市．

百田武司（2024，6）．座長．第25回日本認知症ケア学会大会，ポスターセッション「療法」，東京．

百田武司（2024，6）．座長．日本老年看護学会第29回学術集会，ポスター発表17「高齢者施設ケア，在宅ケア①」，高知市．

百田武司（2024，6－7）．査読者．第44回日本看護科学学会学術集会．

百田武司（2024，9－12）．委員．廿日市市男女共同参画推進懇話会．

百田武司（2024，9）．座長．第51回日本脳神経看護学会学術集会．特別講演 看護におけるDXへの挑戦，福岡市．

百田武司（2024，11）．座長．第42回日本神経治療学会学術集会．メディカルスタッフレクチャー2「ブレインナーシング～脳神経疾患の看護」，千葉市．

百田武司（2024，12）．座長．第44回日本看護科学学会学術集会．一般演題「口演11 老年看護1」，熊本市．

百田武司（2024，12－）．運営委員．一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会．【学外からの研究助成】

山本浩子，百田武司．焦燥性興奮のある認知症高齢者への入眠前のハンドマッサージの効果の検証と導入．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C，令和2年度－令和6年度．

林真二，百田武司．地域高齢者のオーラルフレイルを予防するための地域づくりプロジェクト．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C，令和2年度－令和6年度．

中村もとゑ，百田武司．在宅高齢者のドライスキンを改善するセルフケア教育プログラムの開発と効果．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C，令和2年度－令和6年度．

大久保暢子，佐々木杏子，南川貴子，百田武司，武田保江．重度脳卒中患者に対する家族参加型背面開放座位ケアプログラムの構築と評価．日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B，令和3年度－7年度．

百田武司，木下真吾，横井靖子，飯山有紀．脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケアプログラムの有効性検証の多施設共同試験．日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B，令和4－令和8年度．

佐藤美紀子, 百田武司. 脳卒中後疲労セルフマネジメントプログラムの効果の検証および実装システムの構築. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 C, 令和 6 年度 – 令和 9 年度

戸村 道子

【社会活動】

戸村道子 (2024). 委員. こころの健康づくり委員会, 健康はつかいち 21 推進協議会, 廿日市市.

戸村道子 (2024). 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

Tomura, M. (2024). Nursing Ethics, Sage Journal 査読委員.

【学外からの研究助成】

戸村道子, 笹本美佐, 上園愛. 精神科看護師の倫理的レジリエンス: 職場環境とケアの質との関連モデル構築. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 2 – 6 年度.

田上美千佳, 鈴木美央, 寺岡征太郎, 片山健吾, 戸村道子. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 B (一般), 令和 5 – 10 年度.

矢野 博史

【社会活動】

矢野博史 (2024). 理事, 日本教師学学会.

矢野博史 (2024, 7). 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会, 廿日市市.

矢野博史 (2024, 7). 座長. 第 25 回日本赤十字看護学会教育講演 I 「教育は無限」 – 教育をめぐる「力」の問題から看護を考える, 日本赤十字看護学会. 廿日市市.

矢野博史 (2024, 7). 座長. 第 25 回日本赤十字看護学会市民公開講座 瀬戸内文化歴史探究の本質, 日本赤十字看護学会. 廿日市市.

矢野博史 (2024, 6). 講師. 広島大学病院看護部研修会, 広島大学病院, 広島市.

矢野博史 (2024, 8). 講師. 令和 6 年度山口県新人看護職員研修 (教育担当者) 研修会, 山口県看護協会, 防府市.

矢野博史 (2024, 9). 講師. 令和 6 年度広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会, 広島県看護協会, 広島市.

矢野博史 (2024, 7). 講師. 看護力 UP & 課題解決セミナー 教育学の専門家が斬る 入学の変化からくる困りごとへの対応, メディカ出版, Online.

朝原 秀昭

【社会活動】

朝原秀昭（2024, 4 – 9）. 非常勤講師. 臨床医学概論Ⅲ, 山陽女子短期大学, 廿日市市.
朝原秀昭（2024）. 委員長. 認知症初期集中支援チーム検討委員会, 廿日市市役所, 廿日市市.

Simon Capper

【著書】

Capper, S. (2024) . Bedside Manner Intermediate. Perceptia Press.
Kadoyama, T., Capper, S. (2024) . A Communicative Approach to the TOEIC L&R Test Book 3: Advanced. Seibido Publishing Co. Ltd.

【学会発表】

Capper, S. (2024) . Exploring a transformative online learning system, ZenGengo. 7th Conference of Japan Association for Nursing English Teaching (JANET) . Osaka.
Capper, S., Porter, M., Willey, I., & Watanabe, A. (2024) . A Needs Analysis of Nursing English in Japan. 22nd International and Interdisciplinary Conference on Communication, Medicine and Ethics (COMET) , Brescia, Italy.
Capper, S., Porter, M., MacCallum, H., Levine-Ogura, J., Pauly, M., & Mathieson, P. (2024) . Enhancing English Instruction for Japanese Nursing Students. 50th International Conference of the Japan Association for Language Teaching (JALT) . Shizuoka.
Capper, S. (2024) . How's Your Bedside Manner? An Added Dimension in Nursing English. 50th International Conference of the Japan Association for Language Teaching (JALT) . Shizuoka.

【社会活動】

Capper, S. (2024, 1 – 12) . Member-at-large. Hiroshima Chapter, JALT (The Japan Association for Language Teaching) , Hiroshima.
Capper, S. (2024, 1 – 12) . Adjunct Professor. Hiroshima Shudo University, Hiroshima.
Capper, S. (2024, 1 – 12) . Executive Director. JANET (Japan Association for Nursing English Teaching) , Fukuoka.
Capper, S. (2024, 1 – 12) . Treasurer, JANET (Japan Association for Nursing English Teaching) , Fukuoka.

【学外からの研究助成】

Capper, S., Porter, M., Willey, I., & Watanabe, A. 日本の看護師の英語ニーズ分析. 日

本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C（一般），平成30－令和5年度。

伊藤 渚未

【社会活動】

伊藤渚未（2024，7）. 講師. 中学生に対する性教育，岩国市立灘中学校，岩国市.

伊藤渚未（2024，7）. 講師. 中学生に対する性教育，岩国市立川下中学校，岩国市.

伊藤渚未（2024，7）. 当日実行委員. 第25回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市.

伊藤渚未（2024，10）. 講師. 中学生に対する性教育，岩国市立平田中学校，岩国市.

伊藤渚未（2024，11）. 講師. 中学生に対する性教育，岩国市立玖珂中学校，岩国市.

今井 多樹子

【学術雑誌等掲載論文】

今井多樹子，永井庸央，中垣和子，門田清孝（2024）. 看護学生による倫理検討における視点の構造化—延命治療拒否のリビングウィルをめぐる救急患者の事例から. 質的心理学研究. 23, 98-113.

今井多樹子，三輪晃子（2024）. 特集 実習での学びの最大化 学生主導の実習を成功させるために必要なこと 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の取り組み. 看護教育. 65（2），194-199.

今井多樹子（2024）. 看護師学校養成所の多様性と課題について. 職業教育学会 ニュースレター. 創刊号（2024年7月），8-9.

【学会発表】

今井多樹子，村田由香，水馬朋子，三輪晃子，宗内桂，高田洋介，篠原謙太，門田清孝（2024）. 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む教育方法：学生主導の「看護の基盤実習Ⅰ」の成功例から. 日本看護学教育学会 第34回学術集会 交流集会，東京.

今井多樹子，村田由香，水馬朋子，三輪晃子，宗内桂（2024）. 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の学修成果：KJ法による学修内容の構造化から. 日本看護学教育学会第34回学術集会，東京.

三輪晃子，今井多樹子，宗内桂，篠原謙太，高田洋介，門田清孝，水馬朋子，村田由香，川畑貴寛（2024）. 地域の視点で対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の取り組み：学生による報告会の再現. 第25回日本赤十字看護学会学術集会交流集会，広島.

村川陽子，小林裕子，隅部直子，今井多樹子（2024）. 看護学生が考える在宅療養者の「その人らしい生活」. 第50回日本看護研究学会学術集会，奈良.

門田清孝，今井多樹子（2024）. 入院患者の急変前兆をめぐる看護プロセスに関する国内の文献レビュー. 第26回日本救急看護学会学術集会，東京.

藤原育子, 今井多樹子 (2024). ICU 看護師による臨床判断に関する研究の動向. 第 44 回
日本看護科学学会学術集会, 熊本.

【社会活動】

今井多樹子 (2024). 代議員. 日本看護科学学会.

今井多樹子 (2024, 12). 座長. 第 44 回日本看護科学学会 学術集会, 熊本城ホール 市民
会館シアーズホーム夢ホール, 熊本市.

今井多樹子 (2024). 査読者 (演題抄録). 第 44 回日本看護科学学会 学術集会.

今井多樹子 (2024). 専任査読委員. 日本看護科学学会「日本看護科学会誌」.

今井多樹子 (2024). 専任査読委員. 日本看護研究学会「日本看護研究学会雑誌」

今井多樹子 (2024). 専任査読者. 日本看護学教育学会「日本看護学教育学会誌」.

今井多樹子 (2024). 専任査読委員. 日本質的心理学会「質的心理学研究」.

今井多樹子 (2024). 準備・実行委員. 日本質的心理学会第 22 回大会 (2025 広島).

今井多樹子 (2024). 査読者. 対人援助学会「対人援助学研究」.

今井多樹子 (2024). 査読者. インターナショナル看護哲学研究会「キャリアと看護研究」.

今井多樹子 (2024). 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会 (2024 広島).

今井多樹子 (2024). 査読者 (演題抄録). 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

今井多樹子 (2024). 学会 70 周年記念 研究プロジェクトメンバー. 日本職業教育学会.

今井多樹子 (2024). 講師. 看護研究指導. 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター.
呉市.

今井多樹子 (2024). 講師. 看護研究指導. 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター附
属呉看護学校. 呉市.

今井多樹子 (2024). 講師. 看護研究指導. 独立行政法人国立病院機構 東広島医療センタ
ー. 東広島市.

【学外からの研究助成】

今井多樹子, 折山早苗. 新人看護師が複数患者を受け持つ体制下で求められる多重課題対応
力の育成に関する研究. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般). 令
和 4 - 令和 7 年度.

門田清孝, 今井多樹子. 急変前兆の早期認識・対応における臨床看護コンピテンシーに基づ
く教育プログラム開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般). 令
和 6 - 令和 9 年度.

今田 菜摘

【社会活動】

今田菜摘 (2024, 1 - 8). 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

今田菜摘 (2024, 11). 講師. 地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト. 日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター, 廿日市市.

上園 愛

【学会発表】

川西美佐, 中村敦子, 鈴木香苗, 安田千香, 竹倉晶子, 宗内桂, 木下真吾, 川畑貴寛, 上園愛, 野村悠美子 (2024). 地域住民による模擬患者が学生に伝える“心の動き”の力. 第25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

【社会活動】

上園愛. (2024, 1 – 8). 実行委員. 第25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

【学外からの研究助成】

戸村道子, 笹本美佐, 上園愛. 精神科看護師の倫理的レジリエンス：職場環境とケアの質との関連モデル構築. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C（一般）, 令和2 – 6年度.

奥村 ゆかり

【社会活動】

奥村ゆかり (2024, 1 – 3). 全国助産師教育協議会シミュレーション小委員, 全国助産師教育協議会.

奥村ゆかり (2024, 1 – 12). 日本助産学会専任査読委員, 日本助産学会.

奥村ゆかり (2024, 5). 第38回日本助産学会学術集会査読委員, 日本助産学会.

奥村ゆかり (2024, 5). 第25回日本赤十字看護学会学術集会査読委員, 日本赤十字看護学会.

奥村ゆかり (2024, 4). 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

奥村ゆかり (2024, 8). 講師. 新人助産師集合研修, 広島県看護協会, 広島市.

奥村ゆかり (2024, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立川下中学校, 岩国市.

奥村ゆかり (2024, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立灘中学校, 岩国市.

奥村ゆかり (2024, 9). 講師. 小学生に対する性教育, 広島市立府中南小学校, 府中市.

奥村ゆかり (2024, 10). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

奥村ゆかり (2024, 11). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立玖珂中学校, 岩国市.

【学外からの研究助成】

奥村ゆかり, 勝田真由美, 中村敦子, 渡邊聡美. 学童期から大学生男女へのプレコンセプションケアを目指した教育プログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金

基盤研究C（一般），令和2－6年度．

金藤 亜希子

【社会活動】

金藤亜希子（2024）．委員．健康ひろしま 21 圏域計画推進ワーキングチーム会議，広島県西部地域保健対策協議会，広島県．

金藤亜希子（2024，9）．講師．保健師の資質向上研修，広島市安佐北区厚生部地域支えあい課，広島市．

金藤亜希子（2024，10）．客員准教授．地域作業療法学演習，広島大学，広島市．

金藤亜希子（2024，11）．講師．令和6年度広島市地域包括支援センター職員研修会，広島市健康福祉局高齢福祉部地域包括ケア推進課，広島市．

金藤亜希子（2024，12）．講師．広島市階層別保健師研修会（中堅期），広島市健康福祉局保健部健康推進課，広島市．

亀石 知美

【学会発表】

中村もとゑ，水馬朋子，村田由香，渡邊智恵，高田洋介，宗内桂，亀石知美，若林彰子（2024）．

廿日市市の小学校における防災教育の現状．第25回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市．

【社会活動】

亀石知美（2024，4）．講師．健やかな大学生活を送るために，日本赤十字広島看護大学，廿日市市．

亀石知美（2024，7）．委員（山口県助産師会委託）．山口県道德教育推進会議，山口県教育会館，山口市

亀石知美（2024，7）．講師．健やかな学校生活を送るために，岩国市立川下中学校，岩国市

亀石知美（2024，7）．講師．健やかな学校生活を送るために，岩国市立灘中学校，岩国市

亀石知美（2024，7）．講師．性教育，思春期の生と性，山口県立岩国高等学校 坂上分校，岩国市．

亀石知美（2024，7）．当日実行委員．第25回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市．

亀石知美（2024，9）．相談者．ネウボラ事業，子育て支援センターネットワークぽけっと，岩国市．

亀石知美（2024，10）．講師．健やかな学校生活を送るために，岩国市立玖珂中学校，岩国市

亀石知美（2024，10）．講師．健やかな学校生活を送るために，岩国市立平田中学校，岩国市

川西 美佐

【学術雑誌等掲載論文】

Yoshida, F., Conti, G. J., Yamauchi, T., & Kawanishi, M. (2024) , A Teaching Styles Typology of Practicing Teachers. Journal of Education and Learning; 13 (1) . 1-17.

【学会発表】

日本赤十字看護学会歴史研究委員会，大林由美子，川西美佐，川原由佳里，村瀬智子，力石陽子，石谷操（2024，7）．ヒロシマ原爆被爆から戦後四十年体現し続けた赤十字看護の強さの原点．日本赤十字看護学会第 25 回学術集会，廿日市．

川西美佐，中村敦子，鈴木香苗，安田千香，竹倉晶子，宗内桂，木下真吾，川畑貴寛，上園愛，野村悠美子（2024，7）．地域住民による模擬患者が学生に伝える“心の動き”の力．日本赤十字看護学会第 25 回学術集会，廿日市．

川西美佐（2024，7）．座長．日本赤十字看護学会第 25 回学術集会，シンポジウムⅡ．看護教育・看護実践への DX 活用の本質，廿日市．

【社会活動】

川西美佐（2024）．教育推進部会委員．学校法人日本赤十字学園赤十字の教育研究推進委員会

川西美佐（2024）．評議員．日本赤十字看護学会．

川西美佐（2024）．歴史研究委員．日本赤十字看護学会歴史研究委員会．

川西美佐（2024）．編集委員．日本赤十字看護学会編集委員会．

川西美佐（2024，2，4，5）．講師．看護研究指導，松江赤十字病院，松江市．

川西美佐（2024，11，12）．非常勤講師．広島県立広島皆実高等学校専攻科，広島市．

【学外からの研究助成】

川西美佐，三林洋介，吉田文子，注射処方箋なぞり読みトレーニングツールの汎用化に向けた看護教育パッケージ開発．日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C（一般），平成 31－令和 6 年度．

吉田文子，山内豊明，川西美佐．教育観尺度（日本語版）の開発：教育観とティーチングスタイル選択との関係．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 C（一般），令和 5 年－令和 9 年度．

川畑 貴寛

【学会発表】

三輪晃子, 今井多樹子, 宗内桂, 篠原謙太, 高田洋介, 門田清孝, 水馬朋子, 村田由香, 川畑貴寛 (2024). 地域の視点で対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の取り組み～学生による報告会の再現～. 日本赤十字看護学会第 25 回学術集会, 廿日市市.

川西美佐, 中村敦子, 鈴木香苗, 安田千香, 竹倉晶子, 宗内桂, 木下真吾, 川畑貴寛, 上園愛, 野村悠美子 (2024). 地域住民による模擬患者が学生に伝える“心の動き”の力. 日本赤十字看護学会第 25 回学術集会, 廿日市市.

今井多樹子, 村田由香, 水間朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 川畑貴寛, 篠原健太, 門田清孝 (2024). 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む教育方法: 学生主導の「看護の基盤実習Ⅰ」の成功例から. 日本看護学教育学会第 25 回学術集会, 東京都.

【社会活動】

川畑貴寛 (2024). 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学学会学術集会, 廿日市市.

川畑貴寛 (2024). 準備実行委員. 日本質的心理学会第 22 回大会.

【学外からの研究助成】

川畑貴寛. VR 技術を活用した看護基礎教育における急変対応プログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 3 – 6 年度.

木下 真吾

【学術雑誌等掲載論文】

山崎克仁, 木下真吾 (2024). 「あの、なんていうか、それ」と言いたい言葉が出てこない患者 (健忘失語). 患者さんの症状と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス! 高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 19-22.

山崎克仁, 木下真吾 (2024). 「ぼうそう…ぼうり…ぼうる」と“帽子”が言えない患者 (伝導失語). 患者さんの症状と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス! 高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 23-26.

山崎克仁, 木下真吾, 百田武司 (2024). 高次脳機能障害に対する反復性経頭蓋磁気刺激治療. 患者さんの症状と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス! 高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 27.

木下真吾, 山崎克仁 (2024). 身体の左側をぶついたり, 左側の食事を残したりする患者 (半側空間無視). 患者さんの症状と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス! 高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 60-64.

木下真吾, 山崎克仁 (2024). 同名半盲と半側空間無視. 患者さんの症状と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス! 高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 65.

木下真吾, 山崎克仁 (2024). 見守りなしで歩行して転倒を繰り返す患者. 患者さんの症状

と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス！高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 66-69.

山崎克仁, 木下真吾 (2024). 病室にたどりつけない患者 (地誌的障害). 患者さんの症状と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス！高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 70-72.

木下真吾, 山崎克仁 (2024). 離棟を繰り返す患者. 患者さんの症状と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス！高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 73-76.

木下真吾, 山崎克仁 (2024). 家族の顔がわからない患者 (相貌失認). 患者さんの症状と看護師の悩みにぐぐっとフォーカス！高次脳機能障害. Brain Nursing, 40 (6), 77-80.

【学会発表】

Takeshi Hyakuta, Shingo Kishita, Yasuko Yokoi, Yuki Iiyam. Difference Between Recognition of the Importance of Nursing Care to Strengthen ADL to Stroke Patients and Its State of Implementation, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) conference, 6-7 March 2024, Hong Kong.

宗内桂, 田村由美, 吉田みつ子, 中川典子, 濱田真由美, 谷口千絵, 木村勇喜, 吉田和美, 小野芳子, 近末清美, 木下真吾 (2024). 査読者の視点から見た学会誌 査読体験の中から学ぶ. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 広島市.

川西美佐, 中村敦子, 鈴木香苗, 安田千香, 竹倉晶子, 宗内桂, 木下真吾, 川畑貴寛, 上園愛, 野村悠美子 (2024). 地域住民による模擬患者が学生に伝える“心の動き”の力. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 広島市.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2024). 軽度脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化するための看護ケアの実施と関連, 日本老年看護学会第 29 回学術集会, 高知市.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2024). 重症度が中等度の脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化するための看護ケアの実施と関連, 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2024). 重度脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化するための看護ケアの認識と関連, 第 51 回日本脳神経看護学会学術集会, 福岡市.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2024). 重度脳卒中患者への日常生活援助の中で行う ADL を強化するための看護ケアの実施と関連, 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

【社会活動】

木下真吾 (2024). 社会貢献委員. 公益社団法人日本看護科学学会.

木下真吾（2024，9－12）．理事．一般社団法人日本脳神経看護研究学会．
木下真吾（2024，9－12）．会長．一般社団法人日本脳神経看護研究学会中国地方部会．
木下真吾（2024，1－9）．評議員．一般社団法人日本脳神経看護研究学会．
木下真吾（2024）．査読委員．一般社団法人日本脳神経看護研究学会．
木下真吾（2024）．査読委員．日本ニューロサイエンス看護学会．
木下真吾（2024）．社会貢献・広報委員．一般社団法人日本脳神経看護研究学会．
木下真吾（2024）．庶務担当．一般社団法人日本脳神経看護研究学会．
木下真吾（2024）．編集委員．日本赤十字看護学会．
木下真吾（2024，1－7）．企画委員．第25回日本赤十字看護学会学術集会．
木下真吾（2024，9）．座長．第51回日本脳神経看護学会学術集会，福岡国際会議場，福岡市．

【学外からの研究助成】

木下真吾．VR を活用した脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケア実践プログラムの開発．日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究），令和4－7年度．
百田武司，木下真吾．回復期脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケアのベストプラクティス開発．日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C（一般），平成31－令和3年度．
百田武司，木下真吾．脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケアプログラムの有効性検証の多施設共同試験．日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B（一般），令和4－8年度．
三輪晃子，木下真吾，安田千香．看護師の短時間勤務をサポートするマッチングシステム（広島県 PANORAMA 第8期 Camps アクセラレーションプログラム），令和6年11月－令和7年2月．

木村 幸生

【社会活動】

木村幸生（2024）．ボランティア．メンタルヘルス・食品衛生管理，社会福祉法人交響，広島市．
木村幸生（2024）．支部役員幹事（教育担当）．公益社団法人広島県看護協会廿日市支部．

【学外からの研究助成】

相馬俊彦，古村健太郎，橋本剛明，梁庭昌，宮川裕基，木村幸生．集合的効力感がDV抑制機能を果たす条件の解明：社会生態的な予防介入に向けて．日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B（一般），令和5－9年度．

是澤 あずさ

【社会活動】

是澤あずさ（2024，4）. 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

是澤あずさ（2024，7）. 当日実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

是澤あずさ（2024，9）. 講師. 小学生に対する性教育「いのちのたんじょう」, 府中町立府中南小学校, 広島県安芸郡.

佐々木 かよこ

該当なし

篠原 謙太

【学術雑誌等掲載論文】

篠原謙太（2024）. 高齢の慢性腎臓病患者・透析患者に対するセルフケア支援. 外来看護, 29（1）（pp.63-69）. 日総研出版.

篠原謙太（2024）. 第 2 章 Q8 透析時間や除水量はどうやって決めているの？体重が違っても同じ透析時間なの？. 血液透析のキホンがわかる Q&A 厳選 30, 透析ケア別冊,（pp.34-37）. メディカ出版.

篠原謙太（2024）. 第 2 章 Q9 除水設定を間違えたらどうするの？途中で設定を変更できるの？. 血液透析のキホンがわかる Q&A 厳選 30, 透析ケア別冊,（pp.38-40）. メディカ出版.

【学会発表】

篠原謙太, 田村由美, 村田由香（2024）. 血液透析開始時のシャント穿刺前にシャント狭窄の発見は可能か？. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

野村悠美子, 田村由美, 篠原謙太（2024）. 単科看護大学における多職種連携学習（IPL）の効果と課題.

第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

三輪晃子, 今井多樹子, 宗内桂, 篠原謙太, 高田洋介, 門田清孝, 水馬朋子, 村田由香, 川畑貴寛（2024）. 地域の視点で対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の取組み 学生による報告会の再現. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 高田洋介, 川畑貴寛, 篠原謙太, 門田清孝（2024）. 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む教育方法：学生主導の「看護の基盤実習Ⅰ」の成功例から. 日本看護学教育学会第 34 回学術集会, 新宿区.

木村剛, 松木理浩, 江上豊, 城間久美絵, 篠原謙太, 吉本隆史, 鉾立優作, 徳田勝哉（2024）.

Vascular Access (VA) 看護管理者養成に向けた活動報告. 第 27 回日本腎不全看護学会
学術集会・総会, 富山市.

篠原謙太, 小山貴也, 谷口弘美, 中島朋美, 鳥居芳行 (2024). となりの施設はどうしてる?

VA を護る医療安全と感染対策. 第 27 回日本腎不全看護学会学術集会・総会, 富山市.
岡美智代, 西津規, 後藤浩也, 薄井園, 篠原謙太 (2024). COVID-19 による影響も含む慢
性腎臓病療養指導看護師 (CKDLN) の資格に関する実態調査. 第 27 回日本腎不全看護学
会学術集会・総会, 富山市.

戎谷典子, 森岡万里, 大脇浩香, 篠原謙太, 井上智子, 福原真理, 沖原美穂, 引地由実子,
川東明美, 浅枝正江, 服部智子 (2024). 中国地区における透析看護認定看護師研究会の
活動報告と今後の課題. 第 33 回中国腎不全研究会学術集会, 広島市.

【社会活動】

篠原謙太 (2024). 理事, 代議員. 日本腎不全看護学会.

篠原謙太 (2024). 委員長. 日本腎不全看護学会 統計調査委員会.

篠原謙太 (2024). 委員. 日本腎不全看護学会 医療安全・感染対策委員会.

篠原謙太 (2024). 理事. 日本臨床腎臓病看護学会.

篠原謙太 (2024). 委員. 日本臨床腎臓病看護学会 VA 看護管理者養成委員会.

篠原謙太 (2024). センター調査 個別調査部会 部会員. 日本医療安全調査機構 医療事故
調査・支援センター.

篠原謙太 (2024, 1). 一般演題査読委員. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会.

篠原謙太 (2024, 1 - 3). 幹事. 日本教師学学会企画委員会.

篠原謙太 (2024, 1 - 8). 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

篠原謙太 (2024, 4 - 8). 抄録選考委員. 第 55 回日本看護学会学術集会.

篠原謙太 (2024, 6). 座長. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会 一般演題 (口演) リ
ハビリテーション / 身体機能 / 栄養, 横浜市.

篠原謙太 (2024, 6). 演者. ワークショップ 22 VA 看護の確立に向けて VA をアセスメ
ントする看護の視点, 「VA 看護の確立に向けて～多職種連携・協働の視点から～». 第 69
回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜市.

篠原謙太 (2024, 6 - 7). 査読委員. 第 26 回日本腎不全看護学会学術集会・総会.

篠原謙太 (2024, 11). 座長. 第 27 回日本腎不全看護学会学術集会・総会 一般演題 (口
演) 1 「療法選択・SDM・ACP 1」, 富山市.

篠原謙太 (2024, 11). 座長. 第 27 回日本腎不全看護学会学術集会・総会 シンポジウム
2 「腎不全看護教育の方向性～専門的資格をどう活かすのか～」, 富山市.

【学外からの研究助成】

篠原謙太, 村田由香. 多職種で活用するシャント閉塞予防に向けたシャントモニタリングブ

プログラムの開発。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C（一般），令和4－7年度。

村田由香，宗内桂，篠原謙太。中堅看護師のオーセンティックリーダーシップ開発プログラムの検討。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C（一般），令和5－7年度。

鈴木 香苗

【社会活動】

鈴木香苗（2024，1－7）。実行委員。第25回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市。

【学外からの研究助成】

鈴木香苗。術後補助化学療法を受けるがん患者の倦怠感軽減に向けた身体活動向上プログラムの検討。公益財団法人安田記念医学財団 令和2年度癌看護研究助成，令和2年度（延長中）。

宗内 桂

【学会発表】

今井多樹子，村田由香，水馬朋子，三輪晃子，宗内桂，高田洋介，川畑貴寛，篠原健太，門田清孝（2024）。地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む教育方法：学生主導の「看護の基盤実習Ⅰ」の成功例から。日本看護学教育学会第34回学術集会，新宿区。

今井多樹子，村田由香，水馬朋子，三輪晃子，宗内桂（2024）。地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の学修成果 KJ 法による学修内容の構造化から。日本看護学教育学会第34回学術集会，新宿区。

三輪晃子，今井多樹子，宗内桂，篠原謙太，高田洋介，門田清孝，水馬朋子，村田由香，川畑貴寛（2024）。地域の視点で対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の取り組み～学生による報告会の再現～。第25回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市。

村田由香，宗内桂（2024）。中堅看護師のリーダーシップ開発に関する研究－研修効果の評価－。第25回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市。

中村もとゑ，水馬朋子，村田由香，渡邊智恵，高田洋介，宗内桂，亀石知美，若林彰子（2024）。廿日市市の小学校における防災教育の現状。第25回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市。

田村由美，吉田みつ子，中川典子，濱田真由美，谷口千絵，木村勇喜，吉田和美，小野芳子，近末清美，宗内桂，木下真吾（2024）。査読者の視点から見た学会誌－査読体験の中から学ぶ－。第25回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市。

【社会活動】

宗内桂 (2024, 1 – 6). 編集委員. 日本赤十字看護学会編集委員会.
宗内桂 (2024, 1 – 7). 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.
宗内桂 (2024, 8). 令和 6 年度新人看護職員研修事業実地指導者研修講師. 山口県看護協会.
宗内桂 (2024, 10 – 12). 研究活動委員. 日本赤十字看護学会研究活動委員会.
宗内桂 (2024). 看護研究サポート. 広島県看護協会廿日市支部.

【学外からの研究助成】

村田由香, 宗内桂. 中小規模病院のジェネラリスト看護職のリーダーシップ育成プログラムの作成. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 平成 30 – 33 年度.
宗内桂, 川崎裕美. 子どもの学習環境を維持するための学校避難所運営と地域連携のあり方に関する研究. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 1 – 4 年度.
村田由香, 宗内桂, 篠原謙太. 中堅看護師のオーセンティックリーダーシップ開発プログラムの検討. 基盤研究 C (一般), 令和 5 年度 – 令和 7 年度.

高田 洋介

【著書】

高田洋介 (2024). 感染症蔓延の特徴と対策, 人為的災害の特徴と対策, CBRNE 災害対策, 災害時用配慮者のさまざまな避難生活空間, 医療的ケア児・者への制度とサービス, 外部支援と被災者支援コーディネーション, 広域避難. 地域安全学会編, 防災と福祉ガイドブック – 誰一人取り残さない福祉防災の視 0 点 –. (pp.40 – 41, 42 – 43, 44 – 45, 50 – 51, 92 – 93, 110-111, 142-143). 朝倉書店.
高田洋介 (2024). 災害現場での看護. 大橋一友, 岩崎和子編, ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践④国際化と看護. (pp.86 – 93). メディカ出版.

【学術雑誌等掲載論文】

Ismail Tayfur, Mayumi Kako, Abdülkadir Gündüz, Md Moshir Rahman, Perihan Şimşek, Benjamin Ryan, Shelby Garner, Burcu Bayramoğlu, Chie Teramoto, Yosuke Takada, Tatsuhiko Kubo, & Sanjaya Bhatia. (2024). Exploring Key Capacities: Insights from Assessing the Resilience of the Public Health System Before and After the Kahramanmaraş Earthquakes. International Journal of Disaster Risk Science, 15, 688-702.
高田洋介 (2024). COVID-19 流行下での A 市における外国籍居住者の保健医療サービスへのアクセスに関する実態調査報告. 日本赤十字広島看護大学紀要, 24, 11-19.

【学会発表】

Ismail Tayfur¹, Mayumi Kako, Abdülkadir Gündüz, Md Moshir Rahman, Perihan Şimşek, Benjamin Ryan, Shelby Garner, Burcu Bayramoğlu, Chie Teramoto, Yosuke Takada (2024). Recommendations for public health system resilience building after the 2023 Kahramanmaraş earthquakes: A Scorecard implementation study. The 6th International Conference on Healthcare, SDGs, and Social Business & Social Tech Summit 2024, Hiroshima.

【社会活動】

高田洋介 (2024, 1). 講師. 市民公開講座, 総合健康福祉センター, 廿日市市.
高田洋介 (2024, 6). 講師. 阿品・阿品台防災学習, 阿品台中学校, 廿日市市.
高田洋介 (2024, 6). 非常勤講師. 地域医療防災演習, 摂南大学, 枚方市 (オンライン).
高田洋介 (2024, 8). 推進員 (代理出席). 廿日市市国際化・多文化共生推進懇話会, 廿日市市役所, 廿日市市.
高田洋介 (2024, 9). 講師. 廿日市市介護支援専門員連絡協議会研修会, 廿日市市商工会議所, 廿日市市.
高田洋介 (2024, 10). 講師. 第 53 回 BHELP 標準コース web コース, オンライン.
高田洋介 (2024, 11). 講師. ARCH Project Knowledge Co-creation Program Disaster Health Management in ASEAN countries, 神戸.
高田洋介 (2024, 12). 講師. 災害・防災看護, 岩国西中学校, 岩国市.
高田洋介 (2024). 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 「被災者支援コーディネート分野別ガイドライン 多様性配慮」策定ワーキング・グループメンバー.
高田洋介 (2024). 日本赤十字国際人道研究センター研究員.
高田洋介 (2024). 一般社団法人日本看護系大学協議会災害連携教員.
高田洋介 (2024). 長野県高森町防災アドバイザー.
高田洋介 (2024). 国連人道問題調整事務所 UNDAC (国連災害評価調整) メンバー.
高田洋介 (2024). 独立行政法人国際協力機構 ASEAN 災害保健医療管理に係る地域能力強化プロジェクト国内支援委員.
高田洋介 (2024). 独立行政法人国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム登録メンバー.

【学外からの研究助成】

加古まゆみ, Rahaman, MD, Moshir., 寺本千恵, 高田洋介, 久保達彦, İsmail, Tayfur, Perihan, Şimşek., Abdulkadir Gunduz., Burcu Bayramoglu. 「よりよい復興」に向けた公衆衛生保健システムのレジリエンス: スコアカードを用いた評価分析. 科学技術振興機構 カフラマンマラシュ (トルコ南東部) 地震関連 国際緊急共同研究・調査支援プログラム (J-RAPID), 令和 5 年度 - 令和 6 年度.

竹倉 晶子

【社会活動】

竹倉晶子（2024）. 委員. 廿日市市学校給食センター運営会議, 廿日市市教育委員会, 廿日市市.

竹倉晶子（2024）. 査読委員. 日本赤十字看護学会.

中信 利恵子

【学会発表】

風間郁子, 笠谷美保, 中信利恵子, 菅野久美, 今津陽子, 岩永和代, 村松真実, 天野薫, 山田希, 村上富由子, 岸田さな江. 交流集会 SIG 災害看護企画 今だから見直そう! 災害時に備えるがん患者のセルフケア支援～ここだけは押さえない, 日々の患者とのかかわりの中でできる声かけ～. 第 38 回日本がん看護学会学術集会, 神戸市.

今津陽子, 松井健志, 森下安子, 中信利恵子, 松尾香織, 濱舘陽子. 学会企画 3 災害看護倫理検討委員会 災害看護研究における倫理について考える. 日本災害看護学会第 26 回年次大会, Web 開催.

佐々木久美子, 大山太, 霜山真, 橋本翼, 窪田直美, 野島敬祐, 櫻井大輔, 齋藤麻子, 城戸口親史, 末永陽子, 中信利恵子, 小林賢吾, 渡邊和信. 学会企画 7 データから見える近年の自然災害の特徴と看護課題について～調査調整部の活動報告から～. 日本災害看護学会第 26 回年次大会, Web 開催.

【社会活動】

中信利恵子（2024）. 査読委員. 高知女子大学看護学会.

中信利恵子（2024）. 査読委員. 日本災害看護学会.

中信利恵子（2024）. 和文誌専任査読委員. 日本看護科学学会.

中信利恵子（2024）. 専任査読者. 日本糖尿病教育・看護学会.

中信利恵子（2024, 5 – 6）. 査読委員. 第 29 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会.

中信利恵子（2024, 5）. 査読委員. 日本災害看護学会第 26 回年次大会.

中信利恵子（2024, 9）. 座長. 日本災害看護学会第 26 回年次大会, Web 開催.

中信利恵子（2024, 1 – 8）. 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

中信利恵子（2024）. 代議員. 日本災害看護学会.

中信利恵子（2024）. 評議員. 日本慢性看護学会.

中信利恵子（2024）. メンバー. SIG 災害看護（特別関心活動グループ）, 日本がん看護学会.

中信利恵子 (2024). メンバー. ネットワーク活動・調査調整部, 日本災害看護学会.

中信利恵子 (2024). 委員. 災害看護倫理検討委員会, 日本災害看護学会.

【学外からの研究助成】

中信利恵子. 通院治療を行うがん患者と看護師の災害への備えと看護に関する基礎的研究.

日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 平成2 - 6年度.

中村 敦子

【社会活動】

中村敦子 (2024). 講師. 岩国市子育て推進班事業, ベビーマッサージ, 岩国市.

中村敦子 (2024). 事務局. 中四国 M-GTA 研究会, 広島市.

中村敦子 (2024). 企画委員. 第25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

中村敦子 (2024). 委員. 日本私立看護系大学協会, 国際交流委員会, 千代田区.

中村敦子 (2024). 専任査読者. 日本助産学会.

中村敦子 (2024, 4). 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

中村敦子 (2024, 4). 選挙管理委員. 一般社団法人広島県助産師会総会, 広島市.

中村敦子 (2024, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立灘中学校, 岩国市.

中村敦子 (2024, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立川下中学校, 岩国市.

中村敦子 (2024, 9). 講師. 小学生に対する性教育, 府中町立府中南小学校, 府中町.

中村敦子 (2024, 10). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

中村敦子 (2024, 11). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立玖珂中学校, 岩国市.

【学会発表】

川西美佐, 中村敦子, 鈴木香苗, 安田千香, 竹倉晶子, 宗内桂, 木下真吾, 川畑貴寛, 上園愛, 野村悠美子 (2024). 地域住民による模擬患者が学生に伝える“心の動き”の力. 25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

【受賞等】

広島県助産師会 広島県助産師会会長表彰

【学外からの研究助成】

奥村ゆかり, 勝田真由美, 中村敦子, 渡邊聡美. 学童期から大学生男女へのプレコンセプションケアを目指した教育プログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 令和2 - 6年度.

中村 もとゑ

【学術雑誌等掲載論文】

中村もとゑ, 百田武司 (2024). 〈9 社会的行動障害〉21 ささいなことで大声を出し,

暴力を振るう患者. Brain Nursing, 40 (6), 114-118.

中村もとゑ, 百田武司 (2024). 〈9 社会的行動障害〉22 過食し, 人のものまで食べてしまう患者. Brain Nursing, 40 (6), 119-122.

中村もとゑ, 百田武司 (2024). 〈9 社会的行動障害〉23 看護師にひわいなことを言っ
て身体に触ってくる患者. Brain Nursing, 40 (6), 123-127.

【学会発表】

中村もとゑ, 百田武司 (2024). 在宅高齢者のドライスキン改善を目指した教育プログラムの効果: 無作為化比較試験による検討. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

中村もとゑ, 水馬朋子, 村田由香, 渡邊智恵, 高田洋介, 宗内桂, 亀石知美, 若林彰子 (2024). 廿日市市の小学校における防災教育の現状. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

木村幸恵, 百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ (2024). 地域包括ケア病棟看護師の在宅移行支援における多職種協働の実践の因子構造. 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

木村幸恵, 百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ (2024). 地域包括ケア病棟看護師の在宅移行支援における多職種協働の実践に影響する要因の検討. 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

杉町英子, 中村もとゑ, 山本浩子, 百田武司 (2024). 入院中の高齢心不全患者の fatigue (倦怠感・疲労) の実態と影響要因. 日本看護研究学会第 50 回学術集会, 奈良市.

【社会活動】

中村もとゑ (2024, 1 - 7). 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 実行委員.

中村もとゑ (2024, 7). 講師. HCC 運営委員会地域支援事業, 廿日市市.

中村もとゑ (2024). 日本赤十字広島看護大学同窓会, 幹事.

中村もとゑ (2024, 11 - 12). 日本赤十字看護学会歴史研究委員会, 委員.

【学外からの研究助成】

中村もとゑ, 百田武司. 在宅高齢者のドライスキンを改善するセルフケア教育プログラムの開発と効果. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 C, 令和 2 年度 - 令和 6 年度.

野村 悠美子

【学会発表】

野村悠美子, 篠原謙太, 田村由美 (2024, 7). 単科看護大学における多職種連携学習 (IPL) の効果と課題. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

川西美佐, 中村敦子, 鈴木香苗, 安田千香, 竹倉晶子, 宗内桂, 木下真吾, 川畑貴寛, 上園愛, 野村悠美子 (2024, 7). 地域住民における模擬患者が学生に伝える“心の動き”の力. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

野村悠美子, 綿貫真也, 清田友貴, 久保南, 岡田淳子, 江戸克栄 (2024). 脳波測定を使用した看護師の共感性と看護実践能力の関連性の検討. 第44回日本看護科学学会学術集会.

東 智子

【著書】

東智子 (2024). 被災病院における初動体制の立ち上げと多数の傷病者の受け入れ. 庄野秦乃・内木美恵・東智子編, 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 (第5版). (pp.107-113). 医学書院.

東智子 (2024). 病院防災と地域医療機関との連携・受援体制の整備. 庄野秦乃・内木美恵・東智子編, 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 (第5版). (pp.141-146). 医学書院.

【社会活動】

東智子 (2024, 7). 座長. 第25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

益岡 都萌

【学会発表】

山本康裕, 益岡都萌, 田中義人, 山際あゆみ, 田邊彰洋, 津田慎吾, 山上保, 寺澤孝文 (2024). 学習成果のフィードバックによる意欲向上とその変化ー小学生に対するマイクロステップ・スタディを用いた実践ー. 日本教育心理学会第66回総会, 浜松市.

【学外からの研究助成】

益岡都萌, 寺澤孝文. 英単語の語彙習得に関する潜在記憶の性質の解明と効果的学習方法の開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 令和5-7年度.

松原 みゆき

【学会発表】

Matsubara, M., & Kono, A. (2024). Association Between On-the-Job Training and Characteristics of Work Engagement at a 6-Month Follow-Up on Novice Home-Visiting Nurses. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference, Hong Kong.

松原みゆき, 河野あゆみ (2024). 新人訪問看護師の6か月後における離職者の特徴. 第44回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

【社会活動】

松原みゆき (2024). 企画委員. 第25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

松原みゆき (2024). アドバイザー. 広島西医療圏訪問看護推進協議会, 廿日市市.

松原みゆき（2024）．委員．廿日市市保健福祉審議会健康増進専門部会，廿日市市．

松原みゆき（2024）．委員．広島県看護協会 在宅医療の人材（訪問看護師）確保のための
推進事業検討委員会，広島市．

松原みゆき（2024）．委員．JA 広島総合病院 地域医療支援病院諮問委員，廿日市市．

松原みゆき（2024．5）．講師．看護部院内研修会，広島大学病院，広島市．

松原みゆき（2024．7）．講師．廿日市市介護予防・生活支援員養成研修，廿日市高齢者ケ
アセンター，廿日市市．

松原みゆき（2024．9）．2024 年度ファーストレベル教育課程 社会保障制度概論，広島
大学病院，広島市．

【学外からの研究助成】

松原みゆき．新人訪問看護師の実践能力習得状況からみた訪問利用者と看護ケアの構造化．
日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C（一般），令和 2－5 年度．

眞崎直子，竹島正，立森久照，三徳和子，田中貴子，松原みゆき．都市型準限界集落等地域
のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究．日本学術振興会学術
研究助成基金助成金 基盤研究 C（一般），令和 3－5 年度．

松本 あつき

松本あつき（2024，7）．当日実行委員．第 25 回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市．

松本 由恵

【社会活動】

松本由恵（2024．1－7）．実行委員．第 25 回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市．

【学外からの研究助成】

松本由恵，岡田淳子．医療依存度の高い在宅療養者の手指衛生推進のための基礎的研究．日
本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C（一般），平成 30－32 年度（期間延
長）．

丸山 愛子

【学会発表】

丸山愛子（2024）．赤十字病院グループの「チーム医療」への取り組みに関する文献レビュ
ー．第 25 回日本赤十字看護学会学術集会，廿日市市．

【社会活動】

丸山愛子（2024，4－9）．非常勤講師．幼児理解・教育相談，広島大学教育学部，東広島
市．

丸山愛子（2024，10－12）．非常勤講師．教育心理学，広島市立大学，広島市．
丸山愛子（2024，12）．講師．令和6年度日本赤十字広島看護大学臨床指導者研修会 教育心理，日本赤十字広島看護大学，廿日市市．
丸山愛子（2024）．委員．廿日市市事業評価監視委員会，廿日市市役所，廿日市市．
丸山愛子（2024，7）．当日実行委員．第25回日本赤十字看護学会学術集会，日本赤十字広島看護大学，廿日市市．
丸山愛子（2024，8）．講師．3年目リフレッシュ研修 メンタルヘルス・ケア，医療法人一陽会原田病院，広島市．

水兼 香与

【社会活動】

水兼香与（2024）．運営委員．日本 ALS 協会広島県支部，広島県．

水馬 朋子

【学会発表】

今井多樹子，村田由香，水馬朋子，三輪晃子，宗内桂（2024）．地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の学修成果：KJ 法による学修内容の構造化から．日本看護学教育学会第34回学術集会，新宿区．

今井多樹子，村田由香，水馬朋子，三輪晃子，宗内桂，高田洋介，川畑貴寛，篠原謙太，門田清孝（2024）．交流セッション 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む教育方法：学生主導の「看護の基盤実習Ⅰ」の成功例から．日本看護学教育学会第34回学術集会，新宿区．

【社会活動】

水馬朋子（2024）．評議員・査読委員．一般社会法人日本看護学教育学会．

水馬朋子（2024）．選出理事・査読委員．日本医学看護学教育学会．

水馬朋子（2024）．中国・四国ブロック委員・査読委員．一般社団法人全国保健師教育機関協議会．

水馬朋子（2024）．委員．広島県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会，Web開催．

水馬朋子（2024）．委員．広島県西部地域保健対策協議会専門部会，廿日市市．

水馬朋子（2024）．委員．健康たけはら21推進委員会，竹原市保健センター，竹原市．

水馬朋子（2024）．委員．竹原市食育推進行動計画検討委員会，竹原市保健センター，竹原市．

水馬朋子（2024）．委員．令和6年度専任教員継続研修実務者会議，広島県看護協会，広島

市.

水馬朋子 (2024). 委員. 廿日市市建築審査会, 廿日市市役所, 廿日市市.

【学外からの研究助成】

扇原敦, 浅田匡, 水馬朋子, 村田由香. 地域の声を反映した防災教育をコアとした参加型協働プラットフォームの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的研究 (萌芽), 令和5-7年度.

宮崎 麻友

該当なし

三輪 晃子

【著書】

今井多樹子, 三輪晃子 (2024). 【実習での学びの最大化】学生主導の実習を成功させるために必要なこと地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の取り組み. 看護教育. (pp.194-199). 医学書院.

【学会発表】

三輪晃子, 今井多樹子, 宗内桂, 篠原謙太, 高田洋介, 門田清孝, 水馬朋子, 村田由香, 川畑貴寛 (2024). 地域の視点で対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の取り組み 学生による報告会の再現. 第25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 高田洋介, 川畑貴寛, 篠原謙太, 門田清孝 (2024). 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む教育方法: 学生主導の「看護の基盤実習Ⅰ」の成功例から. 日本看護学教育学会第34回学術集会, 新宿区.

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂 (2024). 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む「看護の基盤実習Ⅰ」の学修成果: KJ法による学修内容の構造化から. 日本看護学教育学会第34回学術集会, 新宿区.

【社会活動】

三輪晃子 (2024, 2). 講師. 救急法短期講習, 社会福祉法人 光の園摂理の家, 廿日市市.

三輪晃子 (2024, 10-11). 助言者. 令和6年度広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会, 広島県看護協会, 広島市.

三輪晃子 (2024, 1-7). 実行委員. 第25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

【学外からの研究助成】

三輪晃子. 看護基礎教育における医療事故の未然防止シミュレーショントレーニングの構築. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 令和1-6年度.

三輪晃子, 木下真吾, 安田千香. 看護師の短時間勤務をサポートするマッチングシステム (広

島県 PANORAMA 第8期 Camps アクセラレーションプログラム), 令和6年 11 月 – 令和7年2月.

門田 清孝

【学会発表】

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 川畑貴寛, 篠原健太, 門田清孝 (2024).

地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む教育方法: 学生主導の「看護の基盤実習 I」の成功例から. 一般社団法人 日本看護学教育学会 第 34 回学術集会, 新宿区.

門田清孝, 今井多樹子 (2024). 入院患者の急変前兆をめぐる看護プロセスに関する国内の文献レビュー. 第 26 回日本救急看護学会学術集会, 江東区.

【社会活動】

門田清孝 (2024). 準備・実行委員. 日本質的心理学会第 22 回大会.

門田清孝 (2024, 1 – 8). 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

【学外からの研究助成】

門田清孝, 今井多樹子. 急変前兆の早期認識・対応における臨床看護コンピテンシーに基づく教育プログラム開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 6 – 11 年度.

安田 千香

【学術雑誌等掲載論文】

加利川真理, 沖西紀代子, 安田千香, 岡田ゆみ (2024). Digital Transformation (DX) を用いた授業の学修効果 – 障がいを持ち地域で暮らすことへの理解と支援に関する授業をととして –. 人間と科学 県立広島大学保健福祉学部誌, 24 (1), 91-97.

【学外からの研究助成】

安田千香. 抗癌剤による末梢神経障害患者のためのセルフケア方法の開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 (若手研究), 平成 30 – 令和 6 年度.

黒田寿美恵, 山内栄子, 松井美由紀, 安田千香, 中垣和子, 菊内由貴, 澤岡美咲, 滝口里美.

地域で暮らすがん患者のエンドオブライフ充実に向けた外来 – 地域看護連携モデルの構築. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 2 – 令和 6 年度.

三輪晃子, 木下真吾, 安田千香. 看護師の短時間勤務をサポートするマッチングシステム (広島県 PANORAMA 第8期 Camps アクセラレーションプログラム), 令和6年 11 月 – 令和7年2月.

山内 万裕美

【社会活動】

山内万裕美（2024， 6）. 講師. 阿品・阿品台防災学習, 阿品台中学校, 廿日市市.

山内万裕美（2024， 12）. 講師. 災害・防災看護, 岩国西中学校, 岩国市.

山内万裕美（2024， 10－12）, 日本赤十字看護学会, 国際活動委員.

山村 美枝

【学会発表】

山村美枝, 平林優子, 有田直子, 小林純子, 小泉麗, 杉浦太一, 鈴木千衣, 新家一輝, 西垣佳織, 藤田優一, 横山由美, 川田悠介, 小林睦（2024）. 学会誌に掲載される論文を－編集委員が蓄積した論文掲載の1歩－. 第34回日本小児看護学会学術集会, テーマセッション.

【社会活動】

山村美枝（2024， 12）. 講師. 岡山県看護研修センター教育研修, 岡山県看護協会, 岡山市.

山村美枝（2024）. 専門委員. 大竹市健康増進計画及び大竹市食育推進計画策定委員会, 大竹市健康福祉部, 大竹市.

山村美枝（2024）. 専門委員. 廿日市市福祉保健審議会児童福祉専門部会, 廿日市市福祉保健部, 廿日市市.

山村美枝（2024）. 編集委員会委員. 日本小児看護学会.

山村美枝（2024）. 理事, 評議員. 国際ケアリング学会.

山村美枝（2024）. 専任査読委員. 日本赤十字看護学会.

山村美枝（2024）. 専任査読委員. 日本小児保健協会.

山本 知世

【学外からの研究助成】

山本知世. 独居高齢者の服薬アドヒアランス向上を目指した看護介入プログラムの構築と効果の検証. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 平成31－令和6年度.

山本 浩子

【学術雑誌等掲載論文】

山本浩子, 百田武司（2024）. 〈7 触覚認知障害〉17 ポケットのスマホをスマホと認識できなくなった患者（触覚性失認）. Brain Nursing, 40（6）, 91-94.

【学会発表】

山本浩子, 百田武司（2024）. ハンドマッサージによる認知症高齢者の焦燥性興奮への効果：無作為化比較試験. 第44回日本看護科学学会学術集会, 熊本市.

木村幸恵, 百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ (2024). 地域包括ケア病棟看護師の在宅移行支援における多職種協働の実践の因子構造. 日本看護研究学会第50回学術集会, 奈良市.

木村幸恵, 百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ (2024). 地域包括ケア病棟看護師の在宅移行支援における多職種協働の実践に影響する要因の検討. 日本看護研究学会第50回学術集会, 奈良市.

杉町英子, 中村もとゑ, 山本浩子, 百田武司 (2024). 入院中の高齢心不全患者の fatigue (倦怠感・疲労) の実態と影響要因. 日本看護研究学会第50回学術集会, 奈良市.

【社会活動】

山本浩子 (2024, 1 - 9). 企画委員. 第25回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

山本浩子 (2024, 7 - 12). 講師. 広島県看護協会広島西支部 看護研究サポート.

山本浩子 (2024). 幹事. 日本赤十字広島看護大学同窓会.

山本浩子 (2024). 幹事. 日本赤十字看護学会. (研究助成選考委員)

【学外からの研究助成】

山本浩子, 百田武司. 焦燥性興奮のある認知症高齢者への入眠前のハンドマッサージの効果の検証と導入. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 令和2 - 6年度.

横山 奈未

【学術雑誌等掲載論文】

横山奈未, 越道香織, 清田友貴, 岡田淳子 (2024). 周術期患者の引き継ぎを組織化する Hand-over Process の文献検討. 日本赤十字広島看護大学紀要, 24, 1-9.

【学会発表】

清田友貴, 岡田淳子, 横山奈未 (2024). 看護師の与薬業務における臨床判断のプロセスに関する文献検討. 日本看護技術学会第22回学術集会, 札幌市.

Yokoyama, N., Koshimichi, K., Kiyota, Y. & Okada, J. (2024). Literature Review of the Hand-over Process for Organizing Perioperative Patient Handover. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, Kobe, Japan.

若林 彰子

該当なし

渡邊 聡美

【社会活動】

渡邊聡美（2024， 7）. 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立川下中学校, 岩国市.

渡邊聡美（2024， 9）. 講師. 小学生に対する性教育, 府中町立府中南小学校, 安芸郡府中町.

渡邊聡美（2024， 7）. 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

渡邊聡美（2024， 11）. 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

渡邊聡美（2024， 12）. 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立玖珂中学校, 岩国市.

【学外からの研究助成】

奥村ゆかり, 勝田真由美, 中村敦子, 渡邊聡美. 学童期から大学生男女へのプレコンセプションケアを目指した教育プログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究C（一般）, 令和2－5年度.

編集：令和6年度ヒューマンケアリングセンター運営委員会

委員長：村田由香、副委員長：松原みゆき 委員：山村美枝、水馬朋子、中村敦子、鈴木香苗、三輪晃子、高田洋介、泉晴子、大橋真美、山本恵美子

発行：令和7年3月

日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター 広島県廿日市市阿品台東1番2号

TEL 0829-20-2806 Email human@jrchcn.ac.jp